

2011-2012

# 受験生のための 大学案内

Nara Institute of Science and Technology  
奈良先端科学技術大学院大学



Nara Institute of Science and Technology  
奈良先端科学技術大学院大学

<http://www.naist.jp/>



# 限りなき未知への探究

## ——最先端は奈良先端大から

インターネット、マルチメディア、クローン、ゲノム、ナノテクノロジー……

これらは、例えば 20 年前には一般の人が耳にすることもなかった用語。

——ここ 10 数年における科学技術の進展には目を見張るものがあります。

本学は、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学という“最先端”分野を学べる大学院大学。

最新のテクノロジーに対応した設備と実績豊かな教授陣を整えることにより、輝かしい成果を挙げる一方、産業界にも優秀な研究者・技術者を輩出し続けています。

また、3つの分野を相互に関連する学問としてとらえた、総合的・体系的な研究にも力を入れています。

これからも「先端」の名にふさわしく、科学技術の発展に貢献しながら、

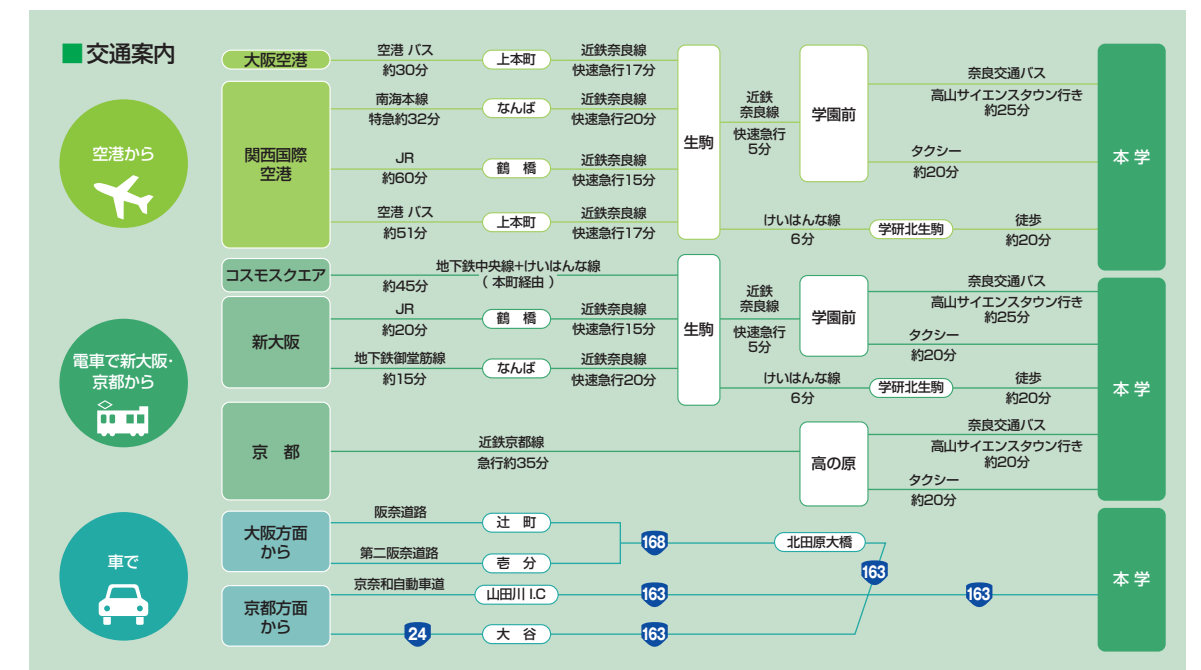
次世代に活躍できる人材を養成していきます。



### Access

アクセス

詳細はホームページ <http://www.naist.jp> をご覧ください



## NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY 奈良先端科学技術大学院大学

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916番地の5 奈良先端科学技術大学院大学 学生課  
 電話 / 0743 (72) 5083・5084 FAX / 0743 (72) 5014  
 メールアドレス / exam@ad.naist.jp ホームページ / <http://www.naist.jp/>

# CONTENTS

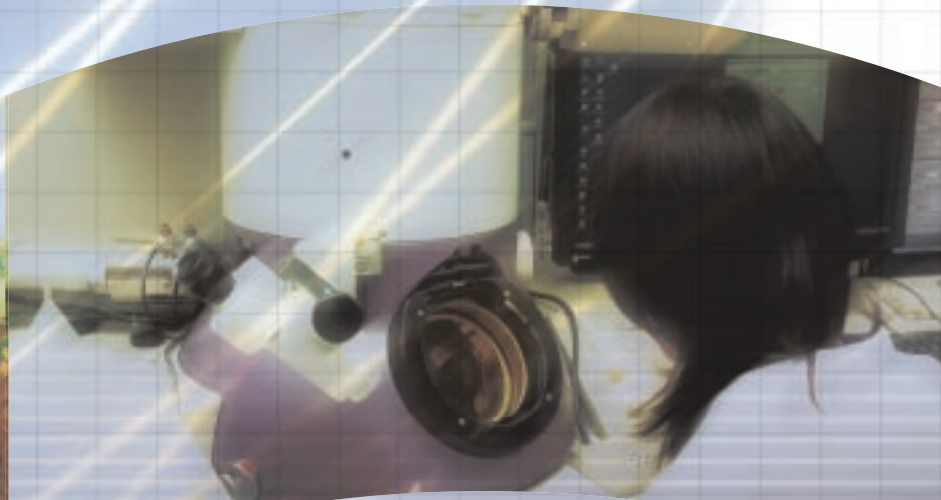
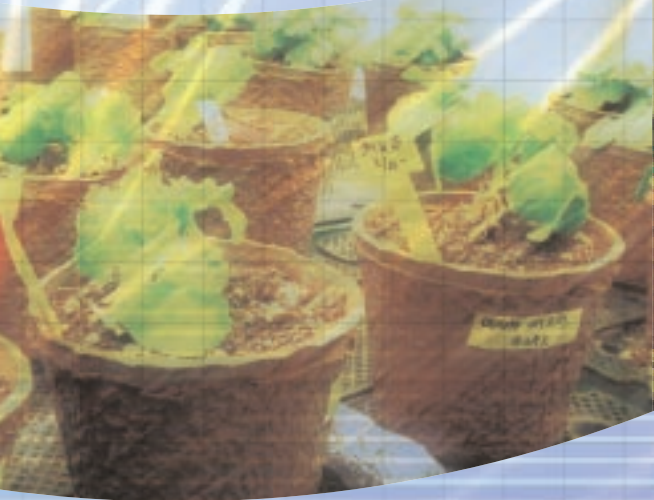
受験生の皆さんへ／目的	
教育使命／人材養成目的	
教育方針／全学のアドミッションポリシー	
.....	3

## 研究科情報

情報科学研究科 .....	5
バイオサイエンス研究科 .....	11
物質創成科学研究科 .....	17

## 大学情報

総合情報基盤センター .....	23
学生支援 .....	25
キャンパスマップ .....	29
キャンパス周辺エリア MAP .....	31
修了後の進路及び就職状況 .....	33
資料その他 .....	35
入学者選抜試験 .....	37
学生募集イベント .....	39
アクセス .....	40





学長 磯貝 彰

## 受験生の皆さんへ 「奈良先端大の歴史を、一緒につくろう」

いま、どの大学院に進もうかと考えている皆さん、ぜひ、奈良先端科学技術大学院大学を一度見に来てください。いつでも本学の教員や先輩が案内します。

この大学に入学するには、皆さんが、これまで大学でどんなことを学んできたのか、今どんなことをしているのかは、全く関係がありません。大学院に入るとは、自分自身の未来への投資です。これからの科学や科学技術に興味があり、それを学修することによって、人として成長し、社会に貢献したいと考えている人ならば誰でも歓迎です。この大学には、海外も含め、色々なところから、色々な人々が集まってきます。それが本学の一つの大きな特徴です。これからはそうした多様性がとても大事になる時代です。学部のない本学では皆さんはみな一緒に、新しい環境での学生生活を始めることになります。その中で、これまでの専門を活かして行くのもよし、新たな分野に挑戦するもよし、でしょう。そして、その過程で、良き仲間、良き教師を見つけることが出来れば、皆さんの一生の財産となります。

この大学には、21世紀の日本にとって、たいへん重要な分野である、情報、バイオ、ナノテクの分野を担う3つの研究科があります。そこにはそれぞれ、きわめて高い研究力をもった教員が集まっています。そしてこの3分野を基盤とした融合的な新しい分野にも挑戦しています。その成果や評判などは、皆さんも新聞などで見たこともあるでしょう。これは、大学院大学としてはたいへん重要なことだと思っています。あの山中伸弥先生も、本学でiPS細胞へ向けての研究を始められ、それがいま大きな成果として実っています。こうした高い研究力を背景にした、組織的・体系的な教育システムが本学の特徴で、皆さんは世界の第一線の研究の場を体験することができます。海外との交流なども盛んで、多くの学生が海外の大学で研修し、また、国際学会などに出席しています。このように研究教育環境が優れているばかりでなく、学生生活を経済的に支援する制度も、日本の中で最高のものであると言えるほど整っています。こうした本学の研究教育の活動は、文部科学省でもたいへん高く評価され、2009年度までの6年間の総合評価で、86ある国立大学法人のうちの第1位とされました。本学の活動がこのように高く評価されたことはうれしいことです。

大学の基本的な機能は「知の創造」と「知の伝承」であると言われます。また、教育に対応する言葉は学修です。さらに、学生は、教員、職員と並んで、大学を構成する大事な要素です。決して単なるお客さんではありません。皆さんと、教育—学修する中で、皆さん自身の人間力がレベルアップすると共に、大学としての「知の創造」と「知の伝承」を実現して行くことが、「大学である」ということだと思っています。これからの社会—持続可能な社会—の成り立ちには、高い科学力あるいは科学技術力を持ち、また、高い人間力を持った人たちが数多く、社会の多様な場で活躍することが必要です。私達は、そうした人たちを育てて、社会に貢献していきたいと思っています。

本学では、1991年の創設以来これまでに、修士課程修了者約5,000名、博士課程修了者約1,000名を社会に送り出しています。そしてそれぞれが、今、社会の色々な分野で活躍しています。彼らは本学の大事な財産で、今もこの大学の歴史を作っています。本年10月に本学は創立20周年を迎え、また新たな20年の歴史を作っていこうとしています。新しい大学だからこそ、これからの新しい歴史に重みがあるのです。皆さんも、この奈良先端科学技術大学院大学の歴史づくりに参加してみませんか。夢のある活動ですよ。



## 奈良先端大はあなたの未来を拓きます！

<p><b>目的</b></p>	<p>奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）は、学部を置かない大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、科学技術の進歩と社会の発展に寄与します。</p>
<p><b>教育使命</b></p>	<p>奈良先端大は、先端科学技術の発展に資する人材を養成するために、学部を置かない大学院大学として平成3年10月に設置されました。NAISTの研究教育分野は、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」の3つの基盤的な学問領域です。</p> <p>21世紀における人類の豊かな生活と住みよい社会を実現し、持続していくためには、次代を担う人材を養成し、人類の存続に役立つ多様な研究成果を社会に提供することが不可欠です。そのためには、単に科学技術に精通するだけでなく、大局的な視点をあわせ持つ人材を育成する全人的な教育が必要です。</p> <p>本学では、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」という先端科学技術の基盤的な学問領域に加え、それらの融合領域の研究教育、また倫理教育や知的財産教育などにも積極的に取り組んでいます。</p>
<p><b>人材養成目的</b></p>	<p>体系的な授業カリキュラムと研究活動を通じて、博士前期課程では、社会・経済を支える高度な専門性を持ち、社会において指導的な立場に立てる人材を、博士後期課程では、科学技術に高い志を持って挑戦し、国際社会で指導的な役割を果たす研究者・技術者を養成します。</p>
<p><b>教育方針</b></p>	<p>専門教育カリキュラムに加えて、人間として備えておくべき倫理観、広い視野、理論的な思考力、積極的な行動力、総合的な判断力、さらには豊かな言語表現能力を養う、教育カリキュラムを実施します。</p> <p>また、新たな融合領域へ挑戦する人材を養成するための、3研究科が連携した教育プログラム、高度な国際性を養成するための、海外の教育研究連携校との共同プログラムを含む、教育プログラムを実施します。</p> <p>そして、自己評価や外部評価をフィードバックして、常に教育の質の向上を図ると共に、教育研究環境の充実と優秀な学生の経済的支援を進めます。</p>
<p><b>全学の アドミッションポリシー (入学者受入れ方針)</b></p>	<p>国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力をもった学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、各々の研究分野に対する強い興味と意欲をもった者を積極的に受け入れます。</p>

# 情報科学研究科

## ユビキタス情報社会を実現する最先端の研究拠点

情報と通信の科学と技術でユビキタス社会を実現するための最先端の研究を展開しています。評価が高い教育カリキュラムと高度な研究力で、広範な分野の知識を網羅した人材を育成します。



### 情報科学研究科の人材養成目的と教育方針

情報科学研究科では、情報科学に係る高度な基礎研究を推進するとともに、感覚と判断を支援する情報処理技術、大規模な情報システムを構成する技術、安心できる情報ネットワークの構築と運用の技術、情報科学と生命科学が関わる広汎な融合研究など、情報科学に関する広範囲な領域をカバーした体系的な教育プログラムを実施して、将来の研究開発を担う研究者や高度な専門性をもった技術者を養成します。

#### 博士前期課程

##### ■教育目標

さまざまな分野の多様な経歴を持った人を受け入れ、広い視野と着実な技術を備えた修士を育成します。進学、就職、起業のいずれの進路であっても、情報科学に関連する幅広い知識と専門分野の先端の知識を修得すること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めること、国際的に活躍するために英語の能力を高めること、適度な倫理感をもつことなどが不可欠です。これらの能力を備えて、社会の変化に柔軟に対応して活躍できる人の育成を目指しています。

##### ■指導計画と方針

- ①カリキュラム：科目が対象とする分野を、「計算機科学」「認識・表現と知能」「情報ネットワーク」「システム科学」「情報生命科学」および「関連する領域」に分けて選択の指針としています。情報科学以外の分野の経歴をもつ人のために、計算機科学と数学の基礎科目を開講しています。
- ②講座配属：入学式の前後に各講座の紹介をして見学の期間を設け、学生の希望調査をもとにして所属する講座を決定します。受入人数は講座によって均等にすることはなく、学生の希望を最優先して、殆どの学生を第一希望の講座に配属しています。

- ③ゼミナールにおける討論と発表：ゼミナールⅠは国内外の一流の研究者や技術者から先端研究の紹介や技術の動向を伺い、質問や意見を積極的に述べる訓練をします。ゼミナールⅡでは、各自の修士論文の研究計画や研究経過を報告して、指導教員や学生のコメンタを受け取ります。
- ④プロジェクト実習：授業では扱えなかった問題や課題について実習や実験を行い、実用化における設計能力を養います。またインターンシップとして他研究機関や企業での研究や開発に携わって、現場での問題解決を体験します。
- ⑤修士論文研究：「研究論文」では、未知の問題について研究を進め、創意を發揮して問題解決することを目指し、その成果を論文の形に総括します。「課題研究」では、特定の研究分野の概観、技術動向の調査などを行い、報告書にまとめます。主指導教員の指導に加えて、副指導教員など複数の教員が協力して指導に当たります。
- ⑥英語教育の充実：学年と能力に応じ、「英語ライティング法」、「英語プレゼンテーション法」等を履修して英語によるコミュニケーションと表現の能力を養います。また、年2回、TOEIC英語試験を受験できる機会を設けています。

#### 博士後期課程

##### ■教育目標

博士後期課程では、長期的な広い視野と、専門とする分野の深い知識を持って、独立して研究を進めることができる研究者を育成します。修了後は、大学や企業等の研究機関における高度な研究者や技術者、後進を指導できる教育者としての活躍が期待されています。情報科学に関連する分野は、進歩が激しく変化が絶えませんが、それによらない普遍的な方法（普遍性）、それに対応できる柔軟な方法（柔軟性）、信頼できる方法（信頼性）が求められます。これらの能力を備えて、国際的に活躍する人材の育成を目指しています。

##### ■指導計画と方針

- ①博士論文研究：博士後期課程では博士論文の研究を進めることが課題の中心です。問題を見つけ出して、研究計画を立て、創意を持った研究を遂行して解法を提案し、さらには、開発あるいは実装します。関連研究を調査すること、自分の提案を客観的に評価すること、残された課題を明らかにすることも欠かせません。これらの過程で、教員が適切な指導と助言をして、研究を支援します。
  - ②中間発表：課程の途中で博士論文研究の経過と結果、および、その後の計画を発表します。複数の指導教員が、それに対して質問をし、意見やアドバイスを述べ、研究の有効な推進を支援します。
- ※カリキュラムの詳細については、研究科紹介12ページを参照してください。



## TOPICS

### 最先端の「曼陀羅」情報環境

- 超高速ネットワーク
- 大容量ファイルサーバ・大規模計算サーバ・情報科学研究システムなど。

### 秀でた競争力で世界最高水準の大学院づくりを推進

- 文部科学省大学院教育改革支援プログラム「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」
- 文部科学省先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム「社会的ITリスク軽減のための情報セキュリティ技術者・管理者育成」
- 経済産業省産学連携製造中核人材育成事業「次世代ロボット分野でのイノベーション型製造中核人材育成事業」

### 外部からの高い客観的評価

- 「研究水準」「教育水準」ランキング 全国1位
- 教員一人当たりの特許ライセンス収入 全国1位
- 教員一人当たりの研究経費 全国1位

### 個性を重視した広範な学生受け入れ

- 入試試験では筆記試験は実施しません。
- 講座はオープンで活気に満ちた講座群からあなたが選択。
- 経済産業省「大学評価」でA+ランクのカリキュラムと集中履修。

### 優秀な学生を支援する豊富な支援プログラム

- 短期修了・特待生・奨励研究員など。
- 海外研修支援や国際研究会発表派遣支援など。

### 研究科長のあいさつ



情報科学研究科  
研究科長  
湊 小太郎

情報科学は、あらたなイノベーションを担う基盤です。現代社会が直面する様々な問題を解決するために、環境やエネルギーのグリーンイノベーション、あるいは生命とヘルスケアに関わるライフイノベーションなど広い分野で、情報の理論に通じ技術を活用できる人材が求められています。

- 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科の特徴を4つあげると次のようになります。すなわち、
- 1) 大学院だけの大学
  - 2) 世界的にも有数の研究設備と教育環境
  - 3) 希望研究室配属の制度
  - 4) 個性を重視した面接による入試制度

研究科にはいろいろな専攻出身の多様な学生が集まっています。いわゆる内部生は存在せず、新入生は皆が同じ条件で、各自が取り組みたいテーマの勉強と研究をスタートできます。

科学技術のなかでも工学は、明治以来、俗に「土機電化」と呼ばれ、土木、機械、電気、および化学が中心的教育研究の対象でありました、この半世紀でこれにあらたに加わったのが「情報」です。「土機電化」の「ものづくり」に対して「情」は「ことづくり」の工学です。我々と一緒に、インターネットで一つに繋がった社会のイノベーションに貢献しましょう。

### アドミッションポリシー

情報科学研究科では、情報・通信の科学と技術の発展や変化に柔軟に対応できる能力を身に付けるため、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力をもった人を求めます。

#### 博士前期課程

旺盛な好奇心と  
何にでも挑戦する  
実行力をもった人。

#### 博士後期課程

専門テーマにおける  
問題の発見と解決の方策を  
見出す力をもった人。

## INFORMATION

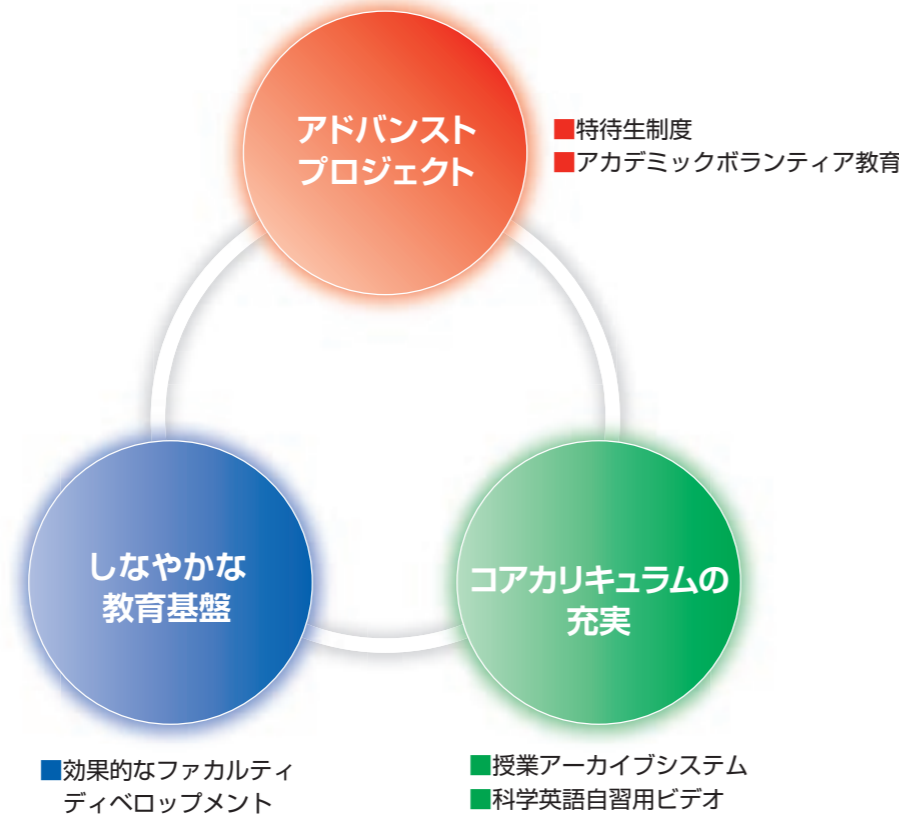
- 情報科学研究科ホームページ  
<http://isw3.naist.jp/home-ja.html>
- 情報科学研究科入試情報ブログ  
<http://is-exam-www.naist.jp/blog/>
- 研究室の見学「いつでも見学」  
<http://isw3.naist.jp/Contents/Others-ja/CampusTour-ja.html>

## 情報科学研究科は教育にも研究にも 全力を注いでいます。

特待生制度は、優秀な学生に経済的支援を行うものです。具体的に授業料相当額の研究奨励金を支給します。  
 平成22年度には、M2学生4名、M1学生3名が特待生に採用されています。過去の研究プロジェクト例として、3名の特待生が協力して開発した案内ロボット「イコちゃん」が挙げられます。大学最寄の「学研北生駒駅」構内で実施し、子供たちや通勤客の人気を呼びました。特待生希望者で入試の成績優秀者に対して特待生選抜を行います。詳しくは学生募集要項を参照してください。  
 アカデミックボランティア教育は、大学院教育の一環として学生が小中学校との連携教育に参加し、学生自身が教えることによって、広い視点や実践的知識、コミュニケーション能力を養うものです。  
 また、「コアカリキュラムの充実」では、授業風景とテキストを連動させた授業アーカイブや、国際会議発表のための科学技術英語自習用ビデオが用意されています。「しなやかな教育基盤」では、海外の大学へ若手教員を派遣して研究指導方法の研修を行う等の取組みを行っています。



アカデミックボランティア教育～小学校でのロボット製作実習

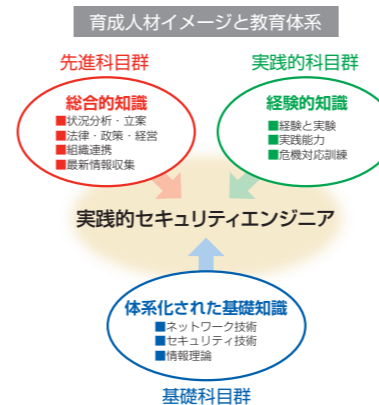


### IT Spiral：高度ソフトウェア技術者育成プログラム

ソフトウェアシステムの大型化・高度化が進む一方で、開発期間の短縮が要求される状況のなか、高度な技術力と応用力を有して長期間にわたり活躍できるソフトウェア技術者が強く求められています。IT Spiral は、「文部科学省・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」の一環として、特にソフトウェア分野における高度な技術者育成を目指し、関西圏の9大学情報系研究科の卓越した専門家群の力とIT分野の代表的な民間企業4社の力を結集して、平成19年度からスタートした教育プログラムです。  
 IT Spiralでは、基礎ソフトウェア工学科目群、先端ソフトウェア工学科目群、実践ソフトウェア開発科目群から所定の単位を履修した学生に、プログラム独自の修了認定証が授与されます。基礎および先端ソフトウェア工学科目群ではソフトウェアの基礎的および先端的な分野を体系的に学びます。実践ソフトウェア開発科目群では、高度な技術力を持つ企業と協調した実習等により実践的なソフトウェア開発能力を習得します。プログラムの詳細については<http://it-spiral.naist.jp/>を参照してください。



### IT Keys：情報セキュリティ技術者・管理者育成プログラム



コンピュータネットワークシステムの情報セキュリティを脅かす攻撃・脅威が年々増大し複雑化・高度化するなか、産学官が連携した情報セキュリティ教育の実施や情報セキュリティ対策に必要な人材の育成が強く求められています。IT Keysは、このような要請にこたえるべく、情報セキュリティ分野における世界最高水準の人材育成拠点の形成を目的とし、「文部科学省・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」の一つとして、関西を中心とする4情報系大学院および4団体・企業が力を結集し、平成19年10月にスタートしました。  
 IT Keysでは、各大学が得意とする専門分野の教育プログラム、各団体・企業の協力による演習プログラムを実施し、組織における情報セキュリティ問題に対して主導的役割を果たすことのできる実践型人材の育成を行います。プログラムの詳細については、<http://it-keys.naist.jp/>を参照してください。

### EPEER Project：先端領域技術活用人材育成プログラム

関西圏には高度な要素技術を持った中小企業の集積を中心に、大手家電メーカーや大手電子部品メーカーの本社が集中。加えて、高等教育機関や国際的な研究機関が立地し、ロボットラボラトリーといった産業創出拠点も整備されています。  
 EPEER Projectでは、こうした関西圏RT（ロボットテクノロジー）分野をリードする各機関・企業の英知を結集し、社会連携型PBLにもとづく実践的教育カリキュラムを開発。少人数体制による密度の高い教育プログラムを提供することで、日本の次世代RT分野をリードしていく人材の育成を目指し、ATR、大阪大学、大阪府都市型産業振興センターと連携して平成20年度からスタートしました。  
 本プログラムの詳細については、<http://www.epeer.jp/>を参照してください。



MESSAGE FROM 企業人事担当者



日置 映正  
ソニー株式会社 人事センター  
採用部 統括課長

NAIST 修了生は、  
多様な分野で活躍しています。

ソニーは、『世界の人々のライフスタイルそのものを変えていく』そんな夢を持ち続けている会社です。ソニーの設立趣意書には、会社設立の目的における第一文に「真面目ナル技術者ノ技能ヲ最高度ニ發揮セシムベキ自由闊達ニシテ愉快ナル理想工場ノ建設」と書かれています。この技術者を大切に  
する環境の中で受け継がれたモノづくりの精神は、今も新しいことにチャレンジし続ける源になっています。そんな精神をもった個性的な人たちが夢中になって共に困難に挑み壁を

乗り越えていくことで、社員もソニーと共に成長していきます。NAIST 修了生は、信号処理技術、駆動制御技術、信頼性技術、情報通信技術、アプリケーション開発、システムソリューション、知的財産権利形成などといった多様な分野で、活躍しています。科学技術に高い志をもって挑戦しているNAIST 修了生の皆さんが、ソニーの仲間に加わってくれることで、大きなシナジーを生み出してくれることを期待しています。

MESSAGE FROM 修了生

NAIST は研究支援体制が  
充実した大学院です。

この冊子を手にとってご覧になっているあなたはチャレンジングで最先端な研究に取り組みたいと思っ  
ているのでしょうか。NAISTは、そのようなあなたに充実した教育体制と様々な領域において最先端の研究を行う環境を提供してくれます。

NAISTの教育体制、研究環境は他の大学院と比べて非常に充実していると私は思います。まず教育体制ですが、情報科学分野の基礎講座から先進的・実践的な講座まで幅広い講座を開設しています。分野外出身も数多く見られますが、充実した教育体制により、研究活動に必要な素地を短期間で身に付けることができます。次に最先端な研究を推進するために国

際活動や産学連携に力を入れている点ではないでしょうか。NAISTでは企業と連携して最先端な研究活動を行っており、特に他大学・企業と共同して高度な技術者を養成するプログラムは特徴の一つではないでしょうか。また、積極的に国際会議への投稿を行い、国際的な成果を挙げるだけでなく、国際交流を通じ見聞を広める良い機会を得ることができま  
す。

NAISTに興味のある方は研究室訪問をお勧めします。NAISTの魅力ある最先端な研究を肌で感じることができるはずですよ。



宇山 一世  
株式会社日立製作所  
産業・流通システム事業部  
流通システム本部  
第一システム部第三グループ  
(平成18年度博士前期課程修了)

MESSAGE FROM 在校生①



前田 紗希  
博士後期課程2年  
(立命館大学情報理工学部卒業)

挑戦する人、やる気のある人を  
全力でサポートしてくれる学校です。

NAISTでは、本人のやる気次第で、やってみたいことや新しいことにどんどん挑戦することができます。その背景には、充実した設備環境や授業による知識のサポート、また先生方の熱心な指導があります。

学部時代、私はコンピュータグラフィックスの研究をしていましたが、NAISTでは思い切って、これまで興味があった生物系の研究ができる研究室を選択しました。当初は先生や先輩方が使っている用語すらほとんど理解できず、戸惑ったことを覚えています。

しかし、とにかく新しいことに挑戦したい!という思いで、

指導教員の先生や先輩方の手厚いサポートのもと、他研究科の授業にも出席したりしながら少しずつ専門知識を積み重ね、入学1年後には学会発表ができるまでになりました。その頃にはどんどん研究が面白くなっていき、研究を続けるために博士後期課程への進学を決意しました。

この学校は、学生のやる気がそのまま自分の研究や成果に反映される、素晴らしい環境だと思います。NAISTはそんな「やってみたい」と思う心を持ったみなさんを歓迎しています。

MESSAGE FROM 在校生②

NAIST に来て一緒に  
おもしろい研究をしてみませんか?

大学院の進学先を選ぶ時には、研究内容や研究業績、設備環境、スタッフの顔ぶれ、場所など色々あると思いますが、NAISTは立地以外のほとんどの条件が国内トップレベルと言っても過言ではありません。そんな NAISTを支えているのが大学院大学という体制だと思います。

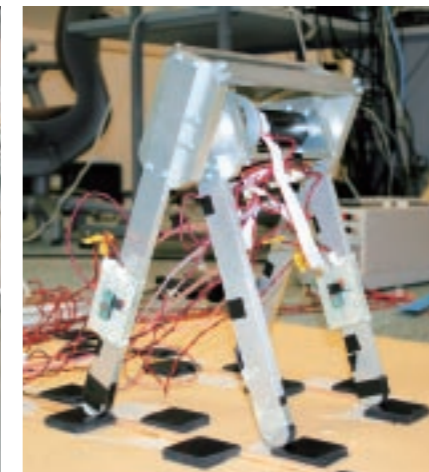
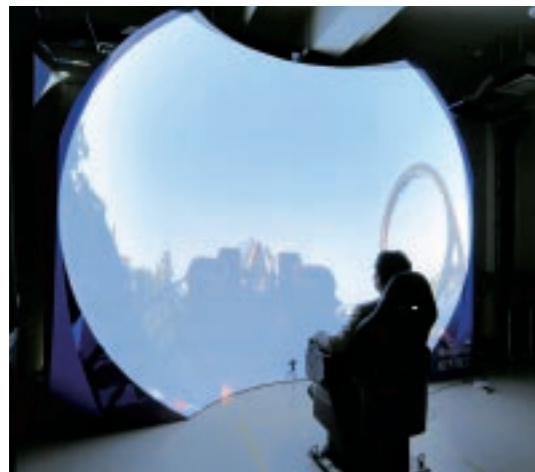
NAISTは大学院大学なので一般の総合大学と比べて学生一人あたりの教員の人数が多くなります。そのおかげでその分野の研究が初めての学生には手厚いケアが、やる気のある学

生にはどんどん研究を進める環境が実現できています。

私は学部のところから画像処理に関する研究を行っていましたが、進学先に NAISTを選んだ理由は最先端の研究を行いたかったからです。その甲斐もあって修士の2年で国内国外合わせて7件の学会で発表することができました。しかし自分自身、まだ納得のいく所まで研究を進められていない事もあって、博士後期課程への進学を予定しています。あなたもNAISTに来て一緒におもしろい研究をしてみませんか?



石黒 剛大  
博士前期課程2年  
(京都大学工学部卒業)



# バイオサイエンス研究科

## 生命現象の基本原則を求めて最先端の研究を推進

生命現象の基本原則と、生物の多様性を明らかにする最先端の研究を推進しています。さらに人類の福祉に貢献する開発研究にも取り組み、世界的レベルで活躍できる多彩な人材を養成します。



### バイオサイエンス研究科の人材養成目標と教育方針

バイオサイエンス研究科では5年一貫で博士号を取得するフロンティアバイオコースと2年で修士号を取得するバイオエキスパートコースの2コース制をとっています。

両コースとも、講義や演習で得た知識および能力と技法を基盤として、各講座で実際の最先端の研究実験に取り組みながら科学的な思考の方法論を身につけ、問題解決のトレーニングをします。学生の多様な学習歴や進路希望に応じて、きめ細かな教育と研究指導をプロセス管理された教育プログラムでおこないます。また本研究科では常に自己評価、外部評価およびFD研修による教育の改善をおこない、教育スタッフのさらなるスキルアップを進めています。

■フロンティアバイオコースでは、先端科学技術分野に係わる高度な研究を推進するとともに、独立して研究の立案や実践ができ国際社会で指導的な役割を果たす研究者を5年間の標準修業年限で育てる事を目的としています。そのために、配属講座での研究指導だけでなく、講座横断的なプログラムであるサマーキャンプ等への参加を義務づけています。先端生命科学の多様な研究課題やアプローチの理解と興味の深化、プレゼンテーション能力や討論力の向上のために、個人にあわせて複数のアドバイザー委員が指導をおこないます。さらに外国人教員による英語講座、国際会議での発表支援や短中期の海外研修、海外の研究教育機関の教員による少人数制集中講義・演習、国際学生ワークショップへの参加を通して実践的な英語教育をおこないます。加えてTA、RA制度により学生の経済的支援をおこないます。

■バイオエキスパートコースでは、高度な知識を生かして企業などで活躍できる人材を博士前期課程2年で育てることを目的としています。多種多様な講義と、さらに理解を深めるための少人数クラスのゼミナールを一つの流れとして、バイオサイエンスにおける諸問題に取り組むために必要な知識、能力、技法を習得します。フロンティアバイオコースと同様に、講座配属後も講座の枠を超えた複数のアドバイザーによる研究指導が行われます。広い基礎知識や高度の専門知識の習得ならびに科学倫理の養成のための講義に加え、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の開発、また、外部から招く企業人の講義、企業活動体験などを通して卒業後のキャリアパス設計を指導します。さらに実用的な科学英語教育をおこないます。

現代社会においては、人々の日常生活のあらゆる場面で科学技術と深いつながりを持っています。本研究科では科学技術社会を幅広く支える多様な人材の養成をめざした教育プログラムをカリキュラムに盛り込んでいます。

- ① 専門的知識を身につけるための体系的なバイオサイエンスの教育プログラム  
関連科目：先端科学のための実践生物学、バイオゼミナール、応用生命科学、各種の特論講義など
- ② 幅広い視野や展開力を身につけるための関連領域に関する教育プログラム  
関連科目：情報科学概論、物質創成科学概論、先端融合科学特論など
- ③ 自立した研究者や技術者として必要な能力や技法を身につけるための教育プログラム  
関連科目：各講座での研究実験、科学技術論・科学技術者論、プロジェクト演習など
- ④ 科学技術に対する社会ニーズに関する高い素養を身につけるための教育プログラム  
関連科目：ゲノム先端科学、社会生命科学、バイオインダストリー特論、知的財産特論など

## TOPICS

### 多様な受験制度

バイオサイエンス研究科では、生命現象の基本原則を解明することに熱意を持つ方や生命科学の知識を人類社会に役立てることに興味を持つ方など、バイオサイエンスの幅広い領域に興味を持つ多様な人材を求めています。このような多様な人材が当研究科を受験するチャンスを増やすために、多様な受験制度を用意しています。

#### 1. 一般入試

年3回（7月、10月、3月）の入試を行います。試験内容は、生物学の基礎知識と英語の口頭試問、小論文の内容（これまでの研究内容、入学後に取り組みたい研究分野）、に関する質疑応答、だけで、いわゆる筆記試験はありません。

#### 2. 推薦入試制度

個性豊かで多様性に富む優秀な学生を受け入れることを目的とした入試制度です。事前の「進学相談会」で「入学後の具体的な研究意欲」があることが認められると、出願時に小論文「入学後に取り組みたい研究分野」の提出が免除されます。事前に「入学後の具体的な研究意欲」があることが認められている訳ですから、本入試での合格の可能性がグンと高くなります。

#### 3. 特別推薦入試制度

博士後期課程への進学を希望する優秀な学生を特待生として受け入れるための入試制度です。小論文審査を必要とする長期インターンシップへの参加（21日以上）、高い英語力、特別進学相談会での5名以上の教授との個別面談に基づく「特別推薦状」、などの条件のクリアが必要です。特待生は入学科・授業料相当額と生活費の支給などが受けられます。平成24年度入試から導入が予定されています。

#### 4. 高等専門学校推薦入試制度

全国の高等専門学校（高専）の優秀な専攻科生を積極的に本研究科に受け入れるための入試制度です。各高専からの推薦を受けた受験生に対して、適性審査（推薦書、成績証明書、小論文により、本学における研究推進能力等を審査。必要に応じて面談を実施）、本入試（7月に書類審査を実施）を行います。平成24年度入試から導入が決まっています。

#### 5. 国際コース

博士後期課程への進学を希望する外国人留学生または帰国子女学生等に対して、英語での5年一貫教育を行なうコースで、入試内容は「1. 一般入試」に準じますが、全て英語で行われます。

### 研究科長のあいさつ



バイオサイエンス研究科  
研究科長  
横田 明穂

日本にとって、「知」と「技」は重要な資源です。わが国は21世紀の日本にとってこれらの資源をさらに発展させ、再生産できる国を目指しています。そこで、20世紀型の大学とは異なり学部を持たず、これらの資源をさらに強化するための大学院大学として、本学を文字通りCenter of Excellence (COE) として設置しました。バイオサイエンス研究科はその一翼を担い、21世紀COE拠点、グローバルCOE拠点として日本で最高の生物学教育研究を実施しています。この過程で、この100年来世界が渴望していた「知」や「技」を見事に創出してきました。たとえば、花成ホルモン・フロリゲンやiPS細胞誘導遺伝子の発見は、世紀の大発見としてマスメディアで大きく紹介されました。皆さんにとってさらに重要なことは、これらの大発見のかなりの部分が皆さんの先輩たちの学位論文研究の成果だったということです。私たちは、教育においても最高のシステムを編み出し、実施しています。博士の学位を目指す学生には5年一貫のフロンティアバイオコースで、学界や産業界でグローバル

レベルの「知」と「技」の創出を担う次世代研究者を養成します。また、バイオエキスパートコースでは、最先端生物学研究の一端を担うことで生物学の醍醐味を体験するとともに、より広い生物学の知識の修得とキャリアパス支援などを通して、社会で活躍するために重要な素養を修得するための教育システムを提供しています。本研究科のこのような教育と研究は研究科のたゆみない自己改革に支えられています。開学から20周年を迎える今年度、さらなる教育効果と機動性の高い教育研究を実現するために、従来の2専攻の組織体制をバイオサイエンス専攻3領域（植物科学領域、メディカル生物学領域、統合システム生物学領域）に再編しました。生物の生き様の分子レベルでの解明に不可欠な諸科学の教育と最先端生物学研究に興味を持つ皆さん、「知」と「技」の創出を担う次世代研究者を目指す皆さん、バイオサイエンス研究科の扉を開けてください。私たち一同、待っています。

### アドミッションポリシー

バイオサイエンス研究科では、次のような人を求めます。

- ① 生命現象の基本原則と生物の多様性を分子レベルおよび細胞レベルで解明することに熱意と意欲を持っている人。
- ② バイオサイエンスの深く広い専門知識を人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い科学技術分野での活躍を志している人。

## INFORMATION

□ バイオサイエンス研究科ホームページ

<http://bsw3.naist.jp/index.html>

□ 研究室の見学

<http://bsw3.naist.jp/admissions/visit.html>

バイオサイエンス研究科および遺伝子教育センターでは、随時希望に応じて研究室等の見学を受け付けています。見学を希望される方は、見学希望の講座の教授に電子メールにてお問い合わせください。

# バイオサイエンス研究科は世界最高水準の研究人材育成をめざしています。

## 文部科学省グローバルCOEプログラム「フロンティア生命科学グローバルプログラム」

文部科学省の「グローバルCOEプログラム」は、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るプロジェクトです。バイオサイエンス研究科は、平成19年度の生命科学系拠点のひとつとして採択され、5年間にわたり大学院生の経済的支援や若手人材育成、国際連携教育などに使う資金が文部科学省から提供されます。4年目を迎える現在までに、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を推進してまいりました。

### 組織的な国際連携教育と地球レベルの人材交流

本拠点では中国科学院発生生物学研究所（CAS-IGDB）、カリフォルニア大学デービス校生物科学部（UCD-CBS）と国際連携を図っています。3大学院共催で、国際学生ワークショップ・国際シンポジウムの開催、CAS-IGDB、UCD-CBS教員による授業（国際バイオゼミナール）や学生の研究評価（サマーキャンプ）、大学院生の指導法に関する相互啓発等の取り組みが順調に進んでいます。



### 国際学生ワークショップ・国際シンポジウム

国際学生ワークショップでは、研究交流を通じて、英語でのコミュニケーションの実践的なトレーニングを行います。1週間の会期中は、すべての会話や発表は英語を公用語とし、日中米の学生がルームメイトとして同宿となり、友情と国際性を育みます。同時に開催される国際シンポジウムでは、世界のトップレベルの研究者による講演が行われ、ワークショップに参加した学生がポスター発表を行います。学生が高いレベルの研究に直接触れて国際化教育で身に付けた力量を実践で試す機会となっています。

#### 国際学生ワークショップに参加して

佐々木 俊弥 細胞機能学講座

国際学生ワークショップでは、研究交流を通じて、英語でのコミュニケーションの実践的なトレーニングを行います。1週間の会期中は、すべての会話や発表は英語を公用語とし、日中米の学生がルームメイトとして同宿となり、友情と国際性を育みます。同時に開催される国際シンポジウムでは、世界のトップレベルの研究者による講演が行われ、ワークショップに参加した学生がポスター発表を行います。学生が高いレベルの研究に直接触れて国際化教育で身に付けた力量を実践で試す機会となっています。



### 国際バイオゼミナール

主にカリフォルニア大学デービス校の教員による、少人数クラスのゼミナールです。最初の3回の授業で研究の背景や手法を米国式のインタラクティブ教育法で学生と議論しながら進め、研究セミナーで英語での質問や討議を行います。

#### 国際バイオゼミナールに参加して

Bambang Retnoaji 遺伝子発現制御学講座

I found that the international seminar class is able to initiate broader scientific perspective and deepen the understanding on the importance of global communication among scientists. The interaction with "foreign" scientist also provides different perspective on judging other scientific research field. All and all, the seminar class is a great experience for me. 国際バイオゼミナールによって、科学的展望や国際的な研究者のつながりがとても大事だとわかりました。海外からきた先生に今まで思ってもみなかった視点からアドバイスをもらい、とても素敵な経験でした。



### 科学英語特別講義（海外研究活動インターンシップ）

カリフォルニア大学デービス校において英語研修と生物科学部の研究室での実験や議論などの活動をする1ヶ月間の研修プログラムです。宿泊はホームステイ形式で、24時間英語環境となっています。UCD-CBSの教育担当副学部長が中心となって、派遣学生の配属研究室の選定や受け入れ教員に対する指導内容のアドバイスに組織的に取り組んでもらっています。

#### 科学英語特別講義に参加して

奥山 史 細胞構造学講座

一瞬一瞬がとても濃く、充実した一ヶ月間となりました。滞在当初は、英語でうまく思いを伝えられず歯がゆい思いを何度もしました。滞在させていただいた研究室では、研究内容を異文化の人々に理解して貰ううえで、内容だけでなくプレゼンテーションスキルがとても重要だということが実感でき、これからの研究生活で意識していこうと思いました。

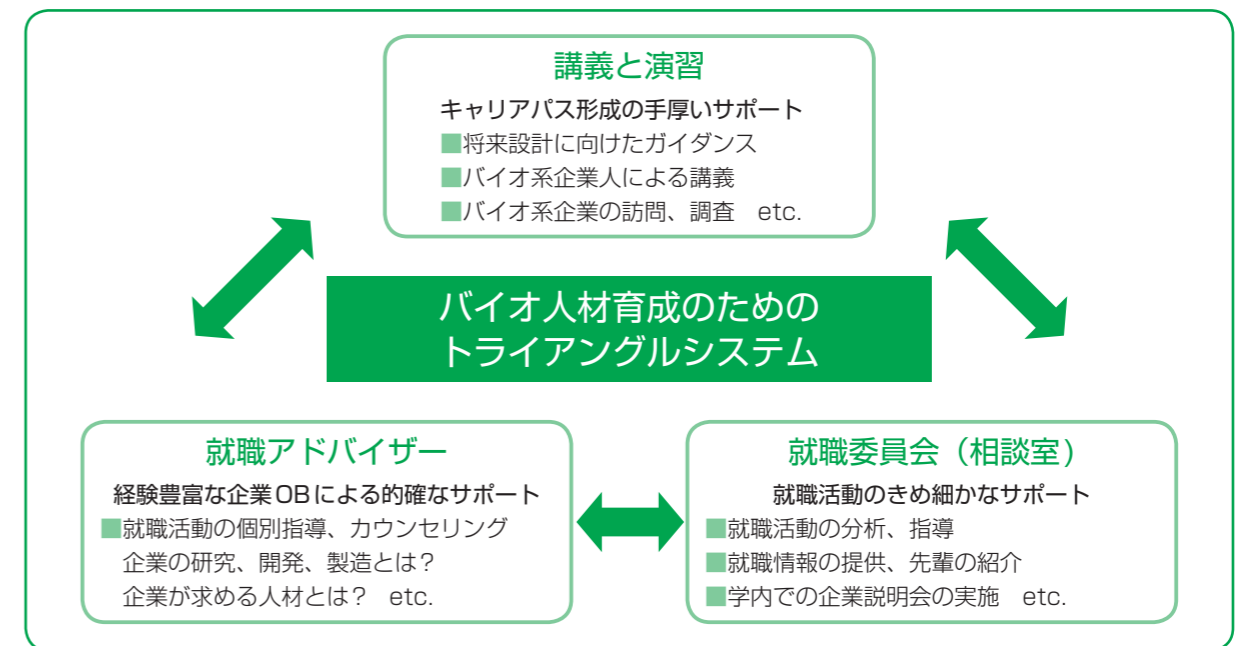


## バイオサイエンス研究科の就職支援体制「バイオ人材育成のためのトライアングルシステム」

### 皆さんの個性に応じたキャリアパス形成をサポートします!!

将来の進路に関しては「修士を修了したら、すぐに社会で働きたい」「ドクターコースに進学したいが、就職が心配だ」「まだ目標がなく、漠然としている」など人それぞれです。本研究科では、一人ひとりの個性や適性に応じた多彩な「就職支援プログラム」を用意し、皆さんが安心して研究や勉強に集中できるように、キャリアパス形成に関する様々なサポートを行なっています（下図）。

具体的には、バイオ分野で幅広く活躍できる人材を育成するために有機的な支援システムを構築しています。就職や進路の悩みについては、経験豊かな就職アドバイザーが個別指導を丁寧に行なっています。また、就職委員会では就職活動をきめ細かくフォローしています。もちろん、将来設計のためのカリキュラムも体系的に整備しています。



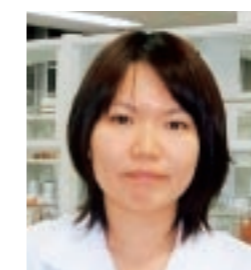
新良 朋宏 雪印メグミルクグループ 日本ミルクコミュニティ株式会社 製造課 (平成18年度 博士前期課程修了)

「あなたはどんな企業に就職し、何がしたいですか？」本学の就職支援は職に就くだけでなく、さらに入社後どのような生活を送るのかわまで、きめ細かく支援していただけます。他大学と大きく異なる利点は企業で重役に就かれている就職アドバイザーの先生方が直接、就職支援を行っていただけることです。私の場合、主に大橋先生にご支援いただき、候補企業選び、エントリーシートの添削、面接対策まで就職活動開始から内定取得までにとどまらず、入社後の企業での人脈づくり、キャリアアップなど、ここに書ききれないほどのきめ細かいご支援をしていただきました。学生一人一人の適性に合った企業に入れるよう最善を尽くした対応をしてくださいます。本研究科の就職支援システムと先生方の力強い指導が一丸となった支援は大変強力なものです。



神谷 明代 シスメックス株式会社 学術本部 学術部 (平成21年度 博士後期課程単位取得退学)

私は現在、自社製品がどのように効果的であるかなどの情報を国内外の文献や、研究資料などから集め、社内やお客様に提供する業務に携わっています。就職活動中は、就職アドバイザーの先生方に変なお世話になりました。エントリーシートの添削や面接前のアドバイスなど、熱心に相談に乗って頂いたことで、自信を持って就職活動に取り組むことができました。また、就職アドバイザーの先生方は、さまざまな企業や業界について熟知しているため、どのような業界に知識や経験を活かせるかなど、私の志望にあった業界や業種を教えてくださいました。視野を広げて就職活動を行うことができました。NAISTでは、研究だけでなく、就職支援体制にも力をいれた素晴らしい大学であると思います。



西野 恒代 協和発酵バイオ株式会社 バイオプロセス開発センター (平成20年度 博士前期課程修了)

いま、NAISTでの2年間を振り返ると、講義・研究・就職活動と非常に濃く、充実した学生生活だったと感じます。研究に没頭できる環境で、目的に対してとことん考え、追求し、結果を出すという技術者の基礎を学べたことは、現在も微生物の研究をしている私にとって、大きな励みとなっています。また、学内での企業研究者の講義や就職支援のおかげで、効率よく情報を得ることができ、的確に就職活動を行うことが出来ました。特に、就職アドバイザーの先生方からは、提出資料の添削に加え、企業研究者であった経験から、企業内の成り立ち、研究の専門的知識を教えてくださいいただき、私自身の進路を具体的に形作ることができました。企業内での研究、開発は捉え辛く感じるかもしれませんが、NAISTでは、毎日の研究、就職支援を通して、リアルな自分の将来像を描くことができます。

MESSAGE FROM 企業人事担当者



青木 正男  
ミツカングループ本社  
ミツカングループ採用チーム

やがて、いのちが変わるもの。

現在は、わざわざ材料を揃えて時間をかけて料理を作らなくても、いつでも食べたい時に食べたいものが食べられるようになりました。しかし、便利さと引き換えに、私たちは何か大切なものを失っているのではないかと感じます。例えば、それが小さいころから食べ慣れてきた「お母さんの肉じゃが」であったりします。お母さんは、家族や子供の健康や成長を願い、心を込めて料理を作ります。そうして出来たお母さんの料理には、お母さんのいっばいの愛情が込め

られています。簡便化・個食化の時代だからこそ、愛情の込められた手料理を大切にしたい。愛情いっばいの料理をみんなで囲む、あったかい食シーンを増やしていきたい。こんな価値観に共感いただけるNAIST修了生の皆さまが、ひとりでも多くミツカングループの仲間となり活躍してくれることを期待しております。

MESSAGE FROM 修了生

努力に応えてくれる場所

本学の研究力の高さ、教育研究支援体制が非常に充実していることは多くの方が述べられていますので、異なる視点から本校の魅力を伝えたいと思います。本学には学部が存在しないため、世間的にあまり知られていないかも知れません。従って、卒業後の評価が気になる方もいるのではないのでしょうか。しかし、そのような心配は無用だと私は思います。素晴らしい先生方と諸先輩方のご努力により高い評価を得ているように感じています。例えば、大学・研究所の先生方や企業の方との名刺交換では、「博士（バイオサイエンス）」という肩書きのお陰ですぐにNAIST出身

であることをご理解頂き、スムーズに研究の話が進むことがあります（高専ではラボは一人で運営します）。また、大学院選びは研究室選びであると学生には指導しておりますが、その意味でも一線級の先生方が在籍しているNAISTは、皆さんにお勧め出来る大学院であり私の教え子も実際に進学しています。先生や学生もアクティブな方が多く、刺激を受けない学生はいないでしょう。自分自身の努力が一番大事であることは間違いありませんが、それに十分応えてくれる場所だと思います。



赤澤 真一  
長岡工業高等専門学校  
物質工学科 生物応用コース  
微生物化学研究室  
准教授  
(平成16年度 博士後期課程修了)

MESSAGE FROM 在校生①



上田 清貴  
博士後期課程1年  
(東海大学海洋学部卒業)

可能性の場所

よく、波止場に釣りにいきます。釣りをする方はご存じでしょうが、波止場での釣りは船で行う釣り等比べて、熟練者と初心者の差が出やすい釣りです。先日、和歌山港へ釣りに行った際、年配の方の隣に席を並べさせて頂く機会がありました。結果から申しますと、私が小魚1匹釣る間に、その方は大物を4匹仕留められておりました。我々の間で、竿、仕掛け等に違いが無かっただけに不思議な経験でした。釣れないついでにアドバイスをもらって帰ることにしました。その方いわく、私は一流の装備を持っているが魚へのアプローチが良くないとのこと。もっと詳しく言うと、刻々と変化する海の状況にあった方法が選択できていないとのことでした。この言葉は、大学院博士課程への進学を考えていた時、記憶に残ったものの1つです。

奈良先端大学は、釣りでいうところの一流の装備ではないでしょうか。具体的には、奈良先端大学の持つ設備、フロンティアな先生/研究員の方々、様々な教育プログラム等が挙げられます。波止場でのアドバイス等を受けた後、私は研究テーマや将来の目標に対して、最適なアプローチは何かと毎日自問しています。素晴らしい装備は既にあるのだから、あとは自分自身のアプローチ次第で、いくらでも可能性を広げられると考えているからです。NAISTへ進学を考えている皆さんも、このような素晴らしい環境で学び、可能性を広げてみませんか。興味のある方は、まず大学を訪れて、関係者と接触を持つことを強くお勧めします。

MESSAGE FROM 在校生②

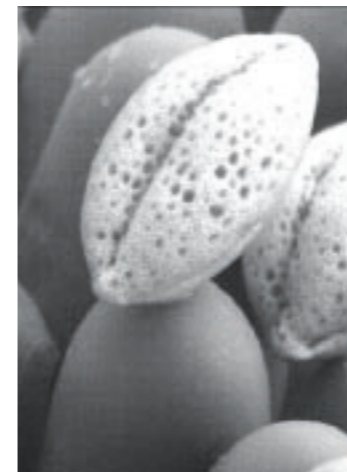
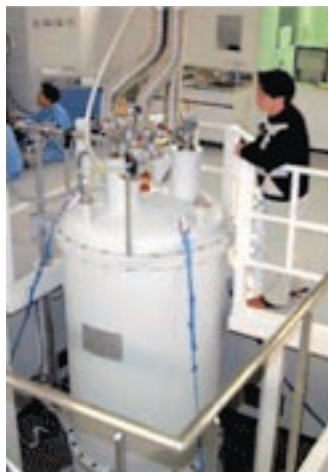
私はNAISTの豊かな環境に魅力を感じています。

奈良での学部生時代、県内の大学院として名前をよく聞いていたことがあり、NAISTのオープンキャンパスに参加しました。そこで、様々な研究領域があることを知り、なにより、「自分の研究の面白さをなんとかして分かってもらおう」と、熱心に説明をして下さる先輩たちの意気に衝撃を受けました。そして、実際に入学して感じたことは、「NAISTには研究を通して大学院生を教育する気概がある」ということです。幅広い分野にわたる講義や、手厚い就職支援、シンポジ

ウムを代表する研究交流会など、学生には多くの機会が与えられます。時には、達成が難しい課題が出ることもありますが、経験することで能力の幅が広がったことが、後から実感できます。また、大学教育とは違いますが、先輩や同級生との交流がとても有意義です。それぞれの知識と経験を背景としたディスカッションから、多くのことを気づかされます。そしていつか、自分の研究を話したくて仕方ない学生が生まれるのだらうと思います。



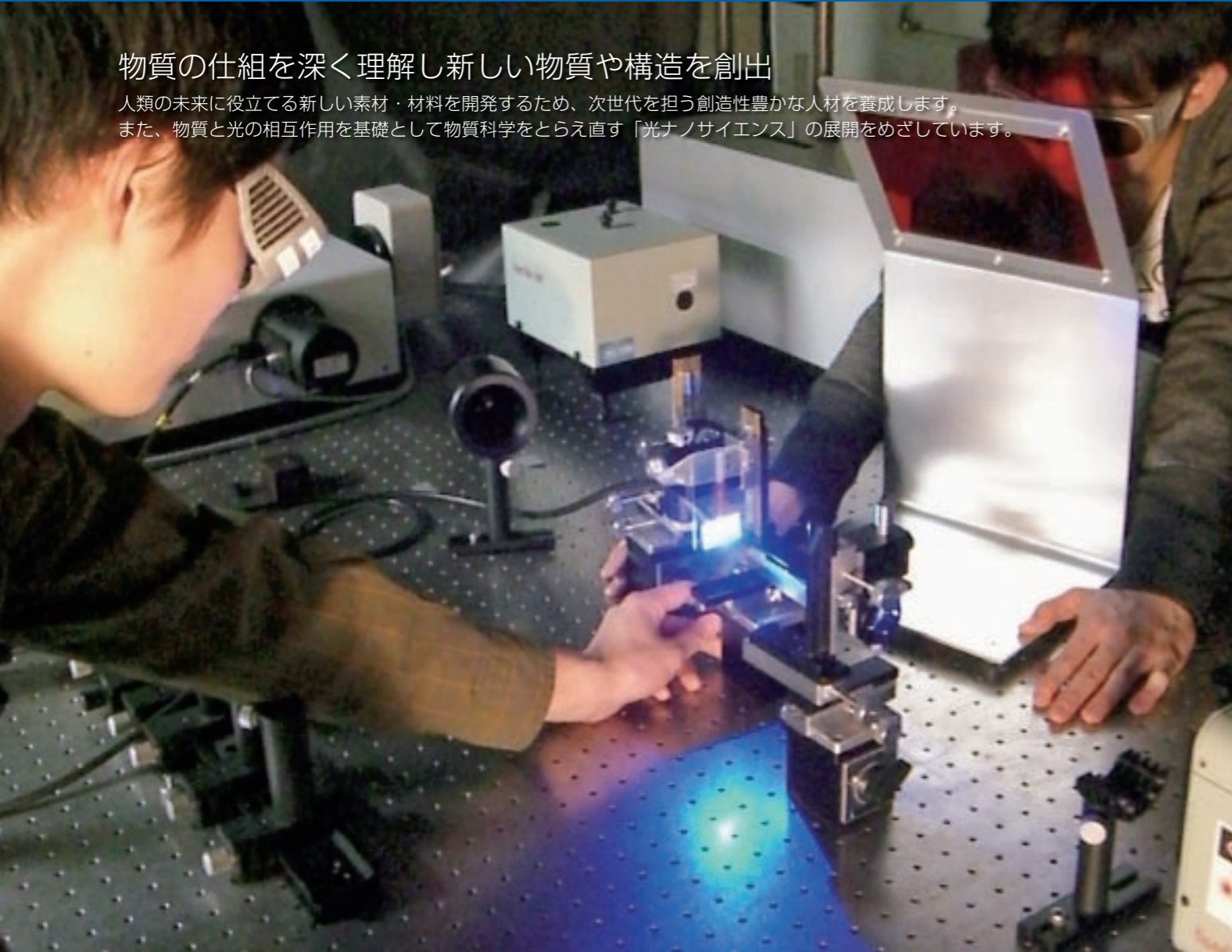
牛田 博  
博士前期課程2年  
(近畿大学農学部卒業)



# 物質創成科学研究科

## 物質の仕組みを深く理解し新しい物質や構造を創出

人類の未来に役立つ新しい素材・材料を開発するため、次世代を担う創造性豊かな人材を養成します。また、物質と光の相互作用を基礎として物質科学をとらえ直す「光ナノサイエンス」の展開をめざしています。



### 物質創成科学研究科の人材養成目的と教育方針

- ・博士前期課程にはα、π、σコースが設置されています。
- ・博士後期課程にはα、π、τコースが設置されています。

各コースの特徴は以下のとおりです。

#### αコース(前期、後期課程)

前後期課程で一貫した博士研究指導を行うことで専門領域に関する深い学識と豊かな創造力を有する人材を育成します。積極的な短期修了を目指します。

#### πコース(前期、後期課程)

融合領域の開拓を担う、複数の専門を有する柔軟で視野の広い研究者を目指し、博士研究の開始において学生がオリジナルな研究テーマを提案して修士研究とは異なる主指導教員を自ら選び研究指導を受けます。

#### σコース(前期課程のみ)

広汎な物質科学の専門知識と方法論を身につけた高度専門職業人を養成します。

#### τコース(後期課程のみ)

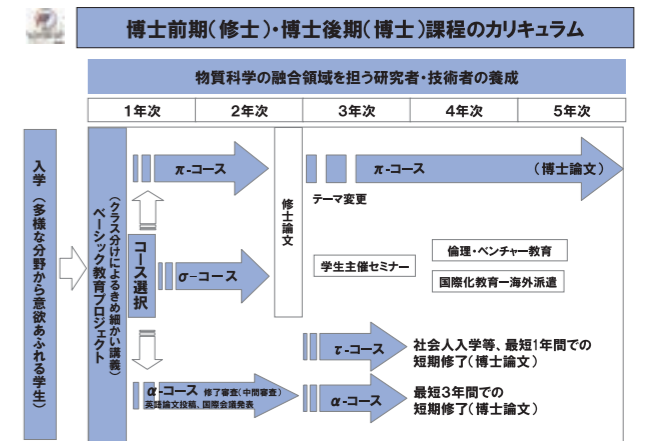
産官学の多様な研究現場で活躍する研究者、技術者に対し、物質科学の高度な専門知識を教授し最先端の研究指導を行います。

#### 博士前期課程では

- ① 前期課程の授業科目は、4月から9月の春学期に集中して開講されます。
- ② 秋学期は、物質科学の融合分野をカバーする集中講義形式の物質科学特論Ⅰ～Ⅳと英語スキル向上のための英語上級クラスのみが行われています。
- ③ 特別課題研究や修士論文研究などが、10月から本格的に取り組める日程を組んでいます。
- ④ 物質科学の広範な分野を網羅し、かつ多様な分野からの入学者に対応するために、物性・デバイス系科目から化学・生物系科目までの幅広い分野で基礎が学べる「基礎科目」を設置しています。
- ⑤ まず4月入学直後に必修科目の「光ナノサイエンス概論」で物質創成科学研究科の全研究室で行われている研究の基礎と概要が、各研究室の教授、准教授により講義され、続いて、物質科学における光ナノサイエンスの基盤となる学術的なプラットフォームの形成のための「光ナノサイエンスコア」が全員必修で講義されます。
- ⑥ 光と物質の相互作用を理解するための基本科目「光と電子特講」や有機材料・生体材料の創成に必要な不可欠な基本科目「光と分子特講」、および光ナノサイエンスの先端融合領域開拓に必要な知識を講義する「先端融合物質科学」を開講し、これらの科目では習熟度に応じてエレメンタリークラスとアドバンスクラスのクラス別の講義を行います。

⑦ さらに、先端科目や特論が開講され、幅広い科目が聴講できるカリキュラムを採っています。

博士後期課程にも「国際化科目」「融合専門科目」「提案型演習科目」「融合ゼミナール」「総合研究科目」などを設け修了要件単位とします。



※カリキュラムの詳細については、研究科紹介5頁を参照してください。

### 研究科長のあいさつ



物質創成科学研究科  
研究科長  
大門 寛

物質創成科学研究科では、恵まれた研究環境の下で、体系的な教育システムを組み、これからの産業界、学界を先導する優れた技術者、研究者を組織的に養成しています。ナノテクノロジー・環境・エネルギーなどの社会的要請の強い先端科学技術の課題の中で、「光ナノサイエンス」を基軸として、教育・研究を展開しています。「光ナノサイエンス」とは光と物質の相互作用を基礎として物質科学をとらえ直したもので、「光で観る」、「光で創る」、「光で伝える」という観点から、物質の仕組みを電子、原子、分子のレベルに立ち返って深く理解し、これに基づいて新しい物質、構造、機能を創り出すことを目指しています。本研究科には物理・デバイス・化学・バイオ物質という幅広い分野の優秀な研究者が集まって活動しているため、新しい融合・学際研究を構築しやすいこと

も特徴です。これまでの諸先輩たちの活躍により、研究・教育レベルでは日本一という評価を得ています。今後も、世界的な研究競争に勝てる「強い研究科」を目指して進んでいきます。また、全ての後期課程学生には数カ月の海外滞在経験を積ませるなど、国際性を涵養する質の高く組織的な教育も特徴です。本学は学部の無い大学院大学であるため、本研究科は出身分野にとらわれず全国から広く志の高い学生を受け入れています。これまでの物質創成科学研究科の活躍は、教員だけでできたものではなく、皆さんの先輩の学生が日夜努力して出した成果がほとんどです。皆さんも、本研究科に入学して、恵まれた環境で最先端の物質研究に携わり、社会や科学・技術に貢献する楽しさ・充実感を味わい、社会に役立つ技術者・研究者となってください。

### アドミッションポリシー

物質創成科学研究科では、次のような人を求めます。

①物質科学や融合領域の創造的かつ先端的研究を行うことに熱意と意欲を持っている人。

②人類社会の諸問題や産業界の要請に強い関心を持ち、技術革新や幅広い科学技術分野での活躍を志している人。



### 東京入試を実施

- 7月に行われる第1回博士前期課程入学試験は東京会場(東京国際フォーラム)でも受けられます。もちろん本学(奈良)会場でも受験できます。

### 学生の研究成果を公開—公開研究業績報告会

- 毎年3月に行われる公開研究業績報告会では、博士・修士修了者の研究成果をポスターで発表します。このうち最も優れた研究については口頭発表も行います。最先端の研究成果に触れてください。

### 最先端研究を体験—体験入学会

- 毎年3月と8月に体験入学会を行います。誰でも、最先端の装置を用いる最先端研究を体験できます。最先端の研究を先取り体験しましょう。

### TOPICS

### INFORMATION

- 物質創成科学研究科ホームページ

<http://mswebs.naist.jp/index.html>

- 「いつでも見学会」(研究室の見学)

<http://mswebs.naist.jp/admission/applicants01.html>

物質創成科学研究科および物質科学教育研究センターでは、随時希望に応じて研究室等の見学を受け付けています。見学を希望される方は、見学希望の講座の教授に電話もしくは電子メールにてお問い合わせください。

# 物質創成科学研究科は体系的な教育を通して養成した人材を優れた技術者・研究者として社会に送り出します。

## 物質創成科学研究科の教育と研究

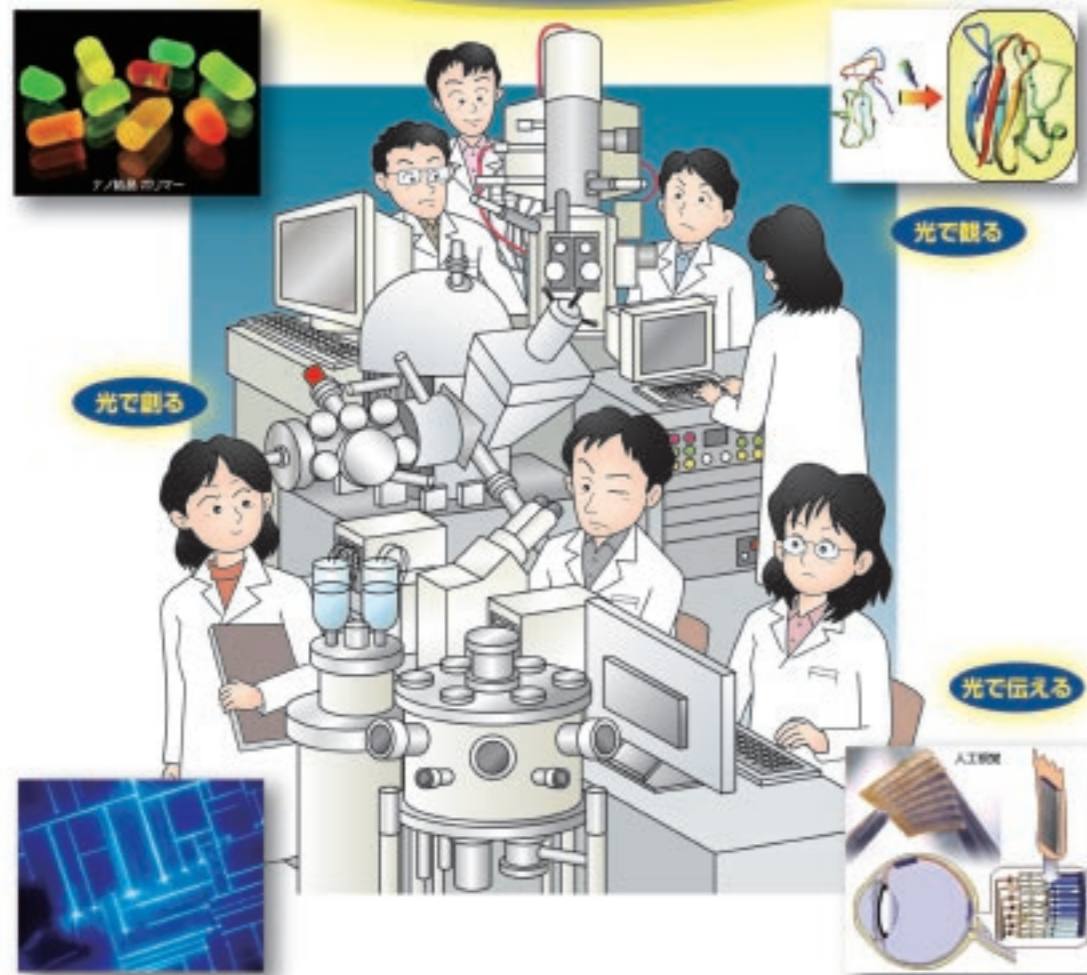
新領域を切り拓くナノ研究者の養成—「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に採択—

「光ナノサイエンス」を中心に次世代の物質科学を担う国際的人材の育成

- 博士前期(修士)・後期(博士)課程を一貫して研究指導し、最短3年で学位取得(αコース)
- 複数専門性の導入による柔軟で視野の広い研究者・技術者の育成(πコース)
- 入学以前のバックグラウンドや本人の能力に合わせた、きめ細やかな指導
- 博士後期(博士)課程の学生には、授業料相当額の教育研究費補助
- 海外の提携大学への派遣や受入を推進し、国際感覚を向上
- 一人当たりの研究費や特許の数で国際最高クラスの実績を誇る教員

国際ネットワークによる若手バイオ物質科学研究者のステップアップ教育プログラム—「若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム」に採択—

## 光ナノサイエンス



## 固体表面に現れる新奇な性質の解明

物の性質は、その大きさにはよらないと教わっていると思いますが、ナノメートル以下のサイズになると、鉄も非磁性になったり、金も化学的に活性になるなど、全ての物質は通常とは異なる性質を示すようになります。また、表面は固体の端であり対称性が破れているため、磁場が無くてもスピンの現れるなど、表面特有の面白い性質を示します。これらの微小領域の新奇な性質は、省資源・ナノテクノロジーに役立つ新機能新材料です。

当講座では、そのような表面ナノ新物質の原子構造や電子構造を研究する表面物性をテーマとしています。これらの材料は、固体表面においては原子レベルで人工的に構築できるとともに、直接見たり測定したりできるため、電子・原子レベルでの研究の格好の舞台になっています。二次元表示型光電子分光装置など独

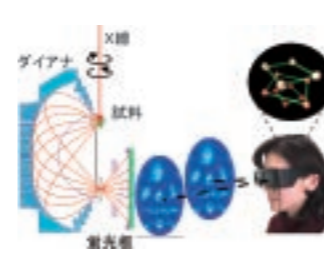


図1 二次元光電子分析器 (DIANA) による原子配列の立体写真撮影

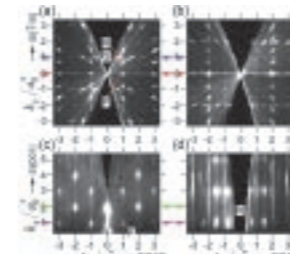


図2 RHEEDによる構造解析

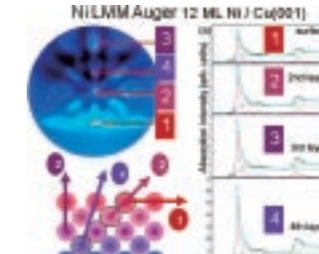


図3 回折分光による層ごとの電子状態解析



図4 ホールサブバンド

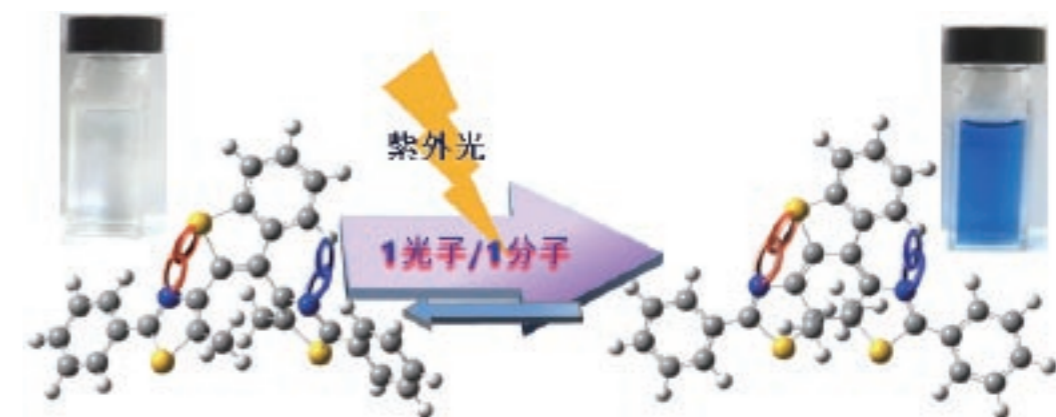
## 人工的な光センサー分子の反応効率がほぼ100%に！ 極限高効率の光応答分子の開発

### 物質創成科学研究科／光情報分子科学講座

私たちの研究室では有機合成化学の手法を基盤に様々な高感度フォトクロミック分子の開発を行ってきました。光で色が変わるフォトクロミック分子は動物の視覚細胞の光センサー分子として働いており、合成されたフォトクロミック分子は光着色型サングラス用の着色色素として視覚の保護のために用いられています。加熱によらずに光エネルギーを直接分子の構造変化に利用できることから、高速高感度の光センサーや光記録材料として注目されてきました。多くのフォトクロミック分子の中でもジアリールエテンやターアアリーレンと呼ばれる分子は光が当たったことを長期間記憶する記録保持性能に優れていることからDVDやブルーレイディスクなどに変わる将来のディスク型記憶媒体用の光記録材料として注目されています。しかし、従来のフォトクロミック分子は光を吸収した際の着色効率が50%程度にとどまっており、その感度の向上に向けて開発が進められてきました。私たちは従来のフォトクロミック分子が多様なコンフォメーション間

で揺らぐことが低い反応効率の原因であると考えました。そこで分子のコンフォメーションを反応性の高い平面構造に固定化するために分子内に特異的な吸引相互作用を有する原子(硫黄原子と窒素原子、窒素原子と水素原子)を複数導入したフォトクロミック分子を開発しました。この結果、新たに開発されたフォトクロミック分子の反応効率(光反応量子収率)は約100%となり、極限高効率の光反応が達成されました。この成果は国内外に報道され注目を集めました。

100%の効率で反応するフォトクロミック分子が達成されたことで、記録材料として用いる場合には従来技術に対して100倍以上の省エネルギー化が可能となると期待されます。光情報分子科学研究室ではこれからも精密な分子設計と高レベルの分子合成技術を組み合わせて、新しい機能や極限性能を有する分子材料を開発してゆきます。



MESSAGE FROM 企業人事担当者



山崎 潤平  
三菱電機株式会社  
人事部 採用グループ

多くのNAIST修了生が活躍しています。

三菱電機は、家電製品はもちろん、街に出ればエレベーターや列車情報システムに今や自動車には欠かせないカーナビやETC、はたまた電気を作る発電機や太陽光発電システムに人工衛星と、家電から宇宙まで様々な製品を手掛け、社会を根底から支えている総合電機メーカーです。

そんな三菱電機で、NAIST修了生は研究部門や設計開発部門、生産技術部門、品質管理部門などの分野で活躍しています。私たちの会社では、事務系も技術系も含めたメンバーがチームとなってプロジェクトを進めることが多いのですが、時には自部門として譲れないことを主張し、時には相手の言

い分を受け入れながら、チームで一番良いものづくりを目指しています。NAISTのような様々な大学の出身者が集まって研究を進める経験をしていると、視点が偏らず、異なるバックボーンの人と共同で何かを進めることが自然と身についていくので、会社に入って働く上でも非常に良い経験だと思っています。

NAISTのすばらしい研究環境の中でしっかり学び、社会を支える技術を身につけた修了生が、三菱電機に入社し、活躍してくれることを楽しみにしております。

MESSAGE FROM 修了生

在学中に養った知識や経験は、今の自分の大きな自信になっています。

これから入学を希望する学生さんにとって現在の環境はとても良いと思います。これまでの研究成果が蓄積され、私が入学した頃に比べ研究レベルは遥かに高くなり、入学してすぐに高いレベルのスタート位置から研究を始めることができます。そのため学会賞の受賞件数が増え、就職などにより有利になっています。

卒業後良かったと思う事は、実験装置をほぼ扱った経験と、多くの論文を書いたり、幸いにも学会賞を受賞できたことだと思います。実際に扱うと原理などの習得がしやすく、就職先でも使用方法をすぐに習得できます。また論文などは就職に

はもちろんのこと、研究費申請にも役立ち、現在も研究できるのは在学中の成果があったからだと思っています。しかし、このような恵まれた環境のため近年学校の知名度が向上し、年々優秀な学生が入学しており合格ラインも上昇しています。面接だけでなく気を抜かずしっかり準備していくことが必要です。

奈良先端大は他の大学ではできない色々な事を経験できます。まずは研究室を訪問してください。きっと入学したくなると思います。



市川 和典  
神戸市立工業高等専門学校  
電気工学科 講師  
(平成20年度 博士後期課程修了)

MESSAGE FROM 在校生①



中島 新  
博士後期課程3年  
(武蔵工業大学工学部卒業)

自由に学際的なNAISTのDNA

奈良先端大の最大の特徴は、自分の好きな研究に打ち込める環境が整っているという事だと思います。またアイデアに行き詰った時に異分野出身の仲間達から意外なアドバイスや刺激がもらえるのも、物理・デバイス系から生物・化学系まで幅広い専門分野を網羅する本研究科ならではの特徵だと思います。私自身、学部は情報系の出身ですが、本研究科には融合領域の研究者を育成するプログラムがあり、博士前期課程で生物有機化学の研究を行い、博士後期課程からは本学バイオサイエンス研究科と共同研究で生体計測を行うための半導体デバイスの開発を行っています。非常に幅広い専門知識

と技術が必要とされる研究ですが、特定の専門分野に捕らわれない奈良先端大の風土と高度な教育・研究設備があればこそ、これほどユニークな研究が出来るのだと思っています。その他にも、留学生や海外の研究者などと交流する機会があります。第一線の研究現場でスリリングな経験が出来るだけでなく、論文の読み方、高度な実験装置の使い方、自ら研究を組み立てる能力など、企業や大学などでサイエンスの専門家として働くための様々なノウハウをここで培う事が出来ると思います。

MESSAGE FROM 在校生②

皆さんも一緒に本学で有意義な研究生活を送りませんか。

私は、研究活動に集中できる環境が十分に整っている本学に魅力を感じ、進学を決めました。本学は、研究活動に重点を置いており、博士前期課程の授業は4～9月に集中して行われ、入学年度の早い時期から研究に打ち込める環境が整います。そして、先生方の熱心かつ丁寧な指導を十分に受けることができます。また、研究設備は非常に充実していて、最先端の実験装置、測定装置が揃っており、本学のこのような環境は非常に魅力的でした。

入学選考の際、私は高専生のための推薦入試を受けました。

推薦入試で、高専での2年間の研究活動を通して培った経験、成果を十分にアピールできたことは、有利だったと思います。最後になりますが、本学はその特色から異なる専門分野から来た方も沢山おり、モチベーションが高い方も多くいます。それぞれが切磋琢磨しながら、日々研究活動に動んでおり、研究者としてだけではなく人として学ぶことも多いです。こうした環境の中で、私は絶えず刺激のある研究生活を送っています。

皆さんも一緒に本学で有意義な研究生活を送りませんか。



谷 真衣  
博士前期課程2年  
(高知工業高等専門学校専攻科機械・電気工学専攻卒業)



# 総合情報基盤センター

総合情報基盤センターは、本学の情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、本学における高度情報基盤を構築し、もって最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献することを目的としています。



## 情報処理環境

### 研究プラットフォーム

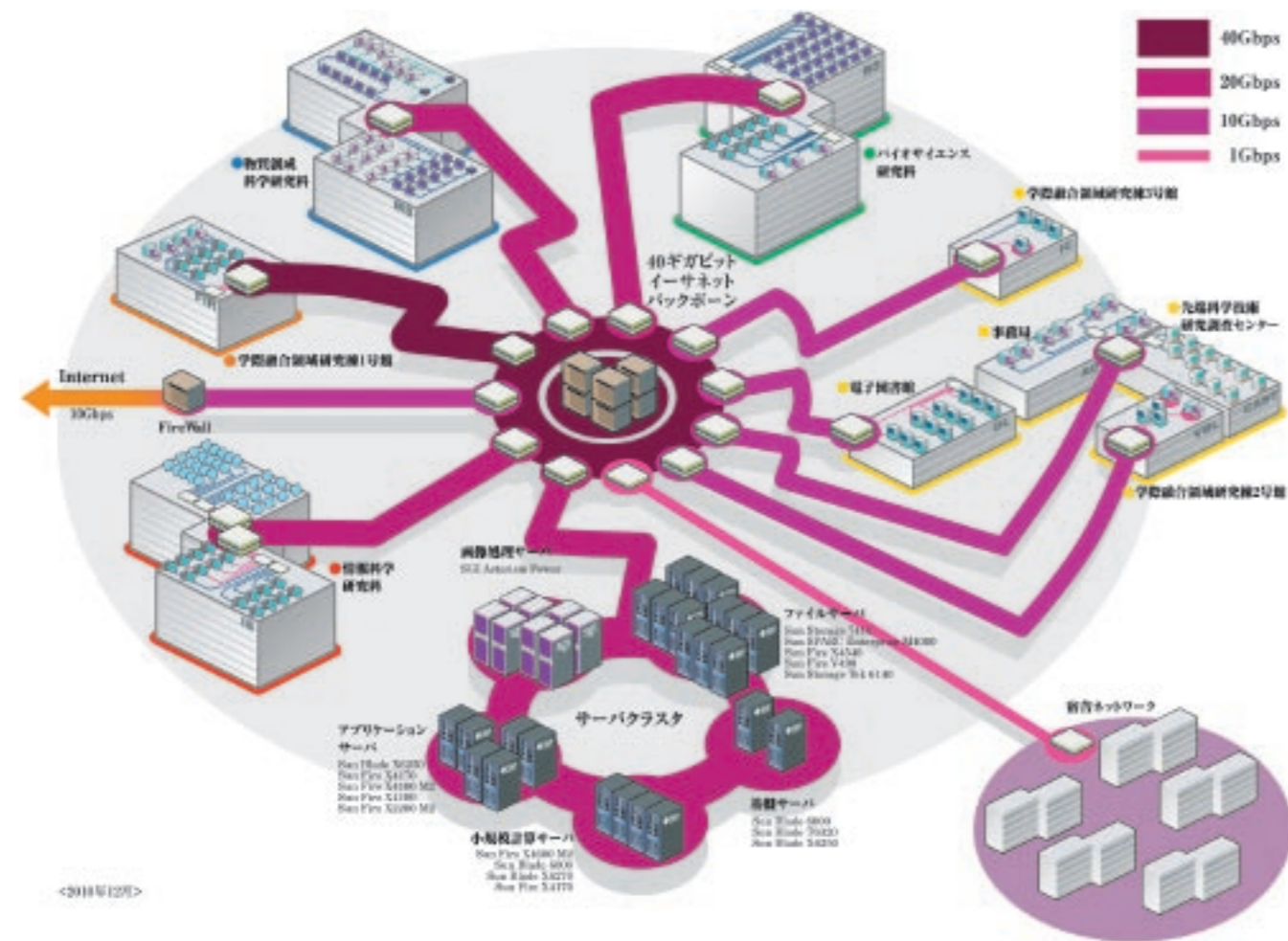
本学は、教育研究活動を支援する最新鋭の情報処理機器を配備した情報基盤をベースに、教育・研究で必要となる情報処理環境の構築を行っています。

### 高いモビリティ

本学が提供する情報処理環境では、教員と学生が情報処理を必要とする場所で機材を思ったように自由に使えます。どの利用者也、いつでも・どこでも情報処理を行える環境が整備されています。本学ではこのような環境を実現するために、アカウントの統一処理、ファイルサーバによる情報資源の集中管理、充実したネットワークサポートを行い、高いモビリティが確保されています。

### 協調分散処理環境

本学が提供する環境は、高速ネットワークをベースに一つの大きな分散処理環境を構築しています。利用者は日常は机の上に置かれた個人常用ワークステーションを利用し、必要となればネットワークを通じて画像処理専用サーバ、小規模計算サーバなどの強力なサーバ群を目的に応じて利用することが可能となっています。



### 曼陀羅ネットワーク

全学情報環境設備「曼陀羅システム」の基盤を支えるのが曼陀羅ネットワークです。曼陀羅ネットワークでは、超高速キャンパス基幹ネットワークとして40Gビット/秒以上の速度帯域のバックボーンを有し、各研究室のフロアに対しても10Gビット/秒の速度帯域を提供しています。また、キャンパス全域で50M～100Mビット/秒の無線LANが使用できます。インターネットにも対外10Gビット/秒の高速専用回線で接続しており、国内外の様々なサイトとの超高速通信を可能にする充実したインターネット接続を確保しています。

## 附属図書館

附属図書館は、先端科学技術（情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学）に関する教育・学術研究活動を支援するために設立されました。必要な学術情報を迅速に提供するため、資料をデジタル化（電子化）し、ネットワークを介して24時間提供する「電子図書館」を構築しています。テキストだけでなく、音声・映像情報を含むマルチメディア情報を、統合化してデータベースに蓄積し提供していますので、WWW(World Wide Web)のブラウザ環境があれば、いつでもどこからでも利用いただけます。図書や雑誌の書誌・所蔵情報や目次情報だけでなく、全文をそのまま画像イメージで、研究室などの端末から検索・閲覧することができます。また図書や雑誌を冊子体で提供する従来型の図書館サービスについても、本学の教職員および学生は24時間利用できます。



## 電子図書館の主なサービス

### 1. MyLibrary機能

利用者一人一人の利用形態にあわせて、専用のページを構築できます。これにより、定期的に参照しているコンテンツ、自分自身の検索履歴等の管理、オンラインコンテンツの管理が行えます。また、電子図書館内に格納された資料とオンラインジャーナルを横断的かつ効率的に検索・管理することができます。

### 2. 学内生産物の組織的な保存、管理

学内の教員、研究者および学生などが生産するテクニカルレポート、科学研究費補助金研究成果報告書、学位論文などの研究成果、また学内で行われる招待講演なども、著者または講演者から、インターネット経由で利用する許諾を得た上で、デジタル情報として収集し、データベース化することで一元的な保存、管理および提供を可能にしています。

### 3. 大学における教育活動との直接的連携

研究科における授業をデータベース化して公開する取り組み「授業アーカイブ事業」を平成17年度から行っています。

### 4. メディアセンター機能

雑誌・図書などの画像情報・文字情報ならびにビデオなどの映像音響情報をデジタル情報として一元的に管理することによって一体的に利用することができます。

### 5. 高度な情報検索

書誌・目次・抄録情報のみでは実現不可能な、本文情報を含めたきめ細かい高度な検索機能を提供しています。

### 6. リアルタイムでの利用

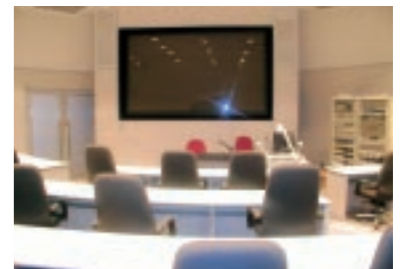
ネットワークを介して、デジタル資料を時間的遅延なしに入手することができます。

### 7. 同時利用の実現

デジタル資料は貸出中の心配がなく、複数利用者が同時に閲覧できます。

### 8. 新着情報通知機能 (SDI)

本文テキストをデータベース化することにより、利用者があらかじめ登録したキーワードに合致する資料の新着情報を電子メールで自動通知します。



### マルチメディアホール

教育・研究を目的に、本学の学生・教職員が予約制で利用できる図書館施設です。各種機器が接続された大型プロジェクトを用いて、講演・発表の開催や、高品質な映像・音声情報の視聴ができる部屋（写真）となっています。この他に少人数でミーティングやセミナーを行うための会議室型のマルチメディア提示室や、高品質な映像音声の製作・編集ができる、マルチメディア製作・編集室もあります。

# 学生支援

学業・研究はもちろん、生活を支援する制度も充実

## 研究活動等に対する支援

奈良先端大では、教育研究の充実・活性化を図るため、外部資金や科学研究費補助金などの多様な研究費の導入を積極的に図り、研究基礎の充実を図るとともに、研究の担い手としての大学院生の処遇を改善することに努めています。

## 基本構想

大学院学生は、学生としての側面とともに、若手研究者としての側面を持ち、大学院における研究の担い手としての役割も有している。大学院生のこのような諸側面に留意しつつ、その適切な処遇を図ることとする。

## 実施状況

### ティーチング・アシスタント（TA）制度の実施

奈良先端大では、大学教育の充実と大学院学生への教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当ての支給により、大学院学生の処遇改善の一助とするためTA制度を平成6年度から実施しています。博士前期課程2年以上の学生を対象として、講義資料の収集・整理・作成補助やレポートの採点補助及び実験の指導補助に従事し、指導・教育方法を学ぶことを積極的に進めています。

#### 平成21年度採用実績

366名採用  
待遇／年間20～450時間（時給1,234～1,476円）  
※担当時間数・時給については、課程・在籍研究科や予算措置状況により一律ではありません。

### リサーチ・アシスタント（RA）制度の実施

RA制度は、国立大学などにおける研究支援体制の充実・強化並びに若手研究者の養成・確保を促進する方策として、優れた大学院後期博士課程在学者を研究プロジェクトの研究補助者として参画させ、学術研究の一層の推進を図るため、文部科学省が平成8年度から導入したものです。本学では、平成7年度からRA制度を全国の大学に先駆けて自主財源で実施しており、平成8年度から導入された文部科学省のRA制度と併せて研究支援体制などの一層の充実・強化を図っています。また、グローバルCOEプログラムを活用して、COE-RAを雇用しています。

#### 平成21年度採用実績

145名採用  
一般的待遇／年間37～1,368時間（時給1,234～2,042円）  
※担当時間数は、予算措置状況により変わります。

### 組織的な大学院教育改革推進プログラム

文部科学省が大学院の優れた組織的、体系的な教育の取り組みに対し、重点的な支援を行う「組織的な大学院教育改革推進プログラム」に、本学の「新領域を切り拓く光ナノ研究者の養成」プログラムが平成21年度に採択されました。



### 積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金やグローバルCOEプログラム、支援財団による助成事業等により、学生が海外の国際学会等において論文（研究）発表するための費用（渡航費、滞在費等）に対する助成を積極的に行っています。

#### 平成21年度海外派遣支援状況

被支援人数225名  
一人当平均支援額19万円  
(平成22年3月26日現在)

### 奨学金

①日本学生支援機構奨学金（旧：日本育英会奨学金）  
学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には、本人の願に基づいて選考の上、貸与されます。日本学生支援機構奨学金には、無利子の第一種奨学金制度と有利子の第二種奨学金制度があります。第一種奨学金の貸与をうけ、在学中に特に優れた業績をあげたものとして支援機構が認定したのものには、学資金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

	入学時貸与月額など	
	第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子）
博士前期（修士）課程	次の受給額から選択 50,000円、88,000円	次の受給額から選択 5・8・10
博士後期（博士）課程	次の受給額から選択 80,000円、122,000円	13・15万円
前年度入学者貸与者	217名（86%）	51名（100%）

#### ②その他の奨学金

NAISTでは、日本学生支援機構奨学金の他に昭和教養振興財団奨学金、文部科学省私費留学生奨励費等の奨学金制度に採択されています。

### 入学金・授業料免除、入学金徴収猶予

経済的理由により入学金又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び入学前1年以内に、学費負担者が死亡し、又は学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、入学金又は授業料の納付が著しく困難であると認められる者に対し、選考の上、入学金又は授業料の全額又は一部を免除する制度があります。また、入学金免除には、併せて入学金徴収猶予の制度もあります。



### 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、入学後の実験、実習等の正課中及び課外活動中の災害事故に対する全国規模の補償制度です。万一被災者となった場合、例えばその治療に長期間を要することになれば、本人はもとより家族の経済的・精神的負担は相当なものになることが予想されます。従って、本学ではそのような場合の負担を少しでも軽減するために、比較的安い保険料で加入出来るこの保険に、入学時、全員加入していただきます。

#### 保険料

博士前期課程 1,750円  
博士後期課程 2,600円

### 学生なんでも相談室

奈良先端大では、大学院生活を送るうえで、さまざまな問題や悩みに直面することがあると思います。そういった学生生活を支援するために「学生なんでも相談室」を設けて、問題解決のアドバイスをしています。



学業・研究はもちろん、生活を支援する制度も充実

学生宿舎

奈良先端大では、619戸の学生宿舎を用意しています。研究活動に十分な時間を確保するためには、相当な負担を必要とし、居住費の低廉な学生宿舎へ入居することが、時間的・経済的な負担を軽減する一助となっています。また、24時間体制で研究活動をサポートするため、学生宿舎内には学内LANも配置され、宿舎にしながら電子図書館や国内外の学術研究機関へのアクセスが可能となっています。

**【入居者の選考方法】**  
入居者の選考は、主に入学試験の成績をもとに決定しますが、実家と大学の距離などの条件によっては、入居許可されない場合もあります。

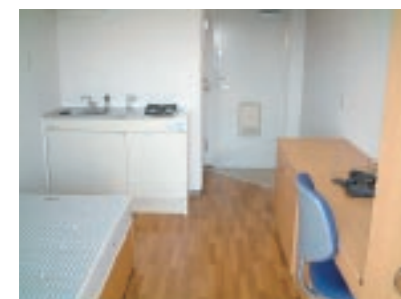


学生宿舎

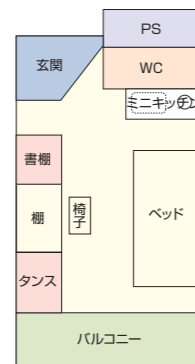
■平成22年度入学者に係る入居状況

博士前期課程	博士後期課程	備考
147人 (57%)	52人 (100%)	( )は入居率 (入居者/入居希望者)

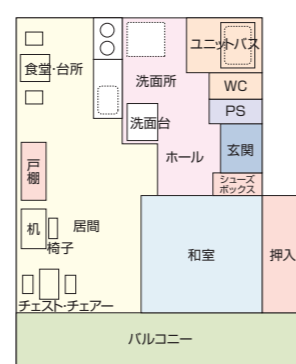
	単身用	夫婦用	家族用
居室数	559室	50室	10室
居室面積	13㎡	36.98~41.45㎡	51.56㎡
設備等	机、ベッド、ミニキッチン、トイレ等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機
共有設備	浴室、ランドリー室、ラウンジ等	—	—
寄宿料 (共益費込み)	月額 10,000円	月額 12,500円~13,300円	月額 15,300円
光熱水料	入居者負担	入居者負担	入居者負担



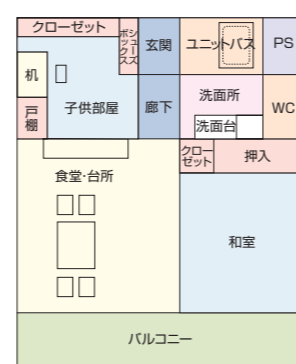
単身用居室



単身用居室



夫婦用居室



家族用居室

学生宿舎619戸 全戸インターネット常時接続可能 (無料)

■学生宿舎駐車場

駐車場は249台あり、利用希望者のほぼ75%程度が割当てを受けています。割当てを受けられなかった者は、公営駐車場を利用しています。なお、学生宿舎入居者が駐車場を利用するにあたっては、半年あたり3,000円~4,000円程度が必要です。



利用者の声 **水井 俊文** 情報科学研究科 博士前期課程1年

NAIST学生宿舎は学校に近いことが一番いいところだと思います。「想像以上に狭い…」それが入居したての人の大半の感想だと思います。しかし、住んでみるとなかなか居心地がよく、家賃の安さやインターネットが無料で使えることにも満足しています。不満があるとすれば、歩いていける場所に何も無いことです。ただ、研究に打ち込めるとい意味ではとても良い環境だと思います。さらに、校内にはトレーニングルームが用意されており、気分転換や運動不足解消のために利用している人も多いです。週末には宿舎のラウンジで友達とご飯を食べたり、ゲームをしたりと学生の輪も広がります。

大学借り上げ住宅【(独)都市再生機構住宅】

学生宿舎への入居が叶わなかった方、また入居を希望されなかった方の下宿探しの一助として、大学周辺の(独)都市再生機構(旧日本住宅公団)の3団地(中登美第三団地、平城第一団地、富雄団地)賃貸住宅を大学が借り上げ、希望者に提供しています。

- 家賃等の目安  
間取り1DK~3DKの物件 ●家賃:3万5千~5万円  
●共益費:3千円前後  
●保証金:なし

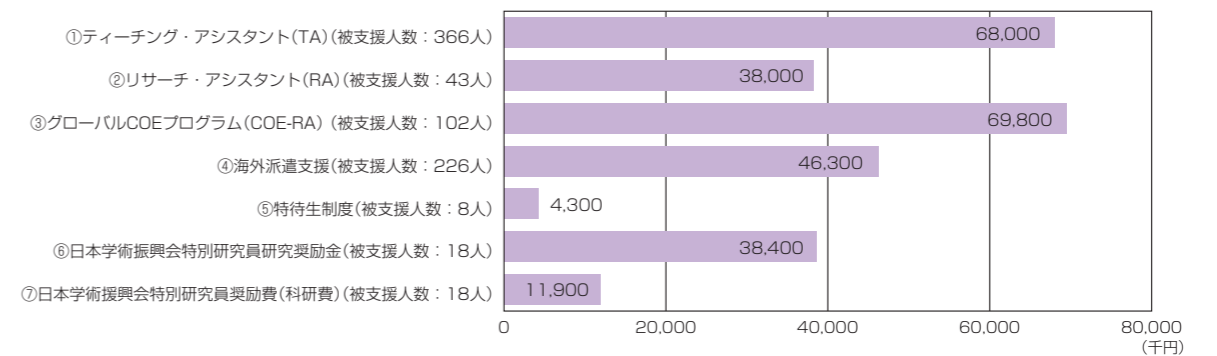
民間アパート等

アパート、マンションを斡旋する業者を紹介します。

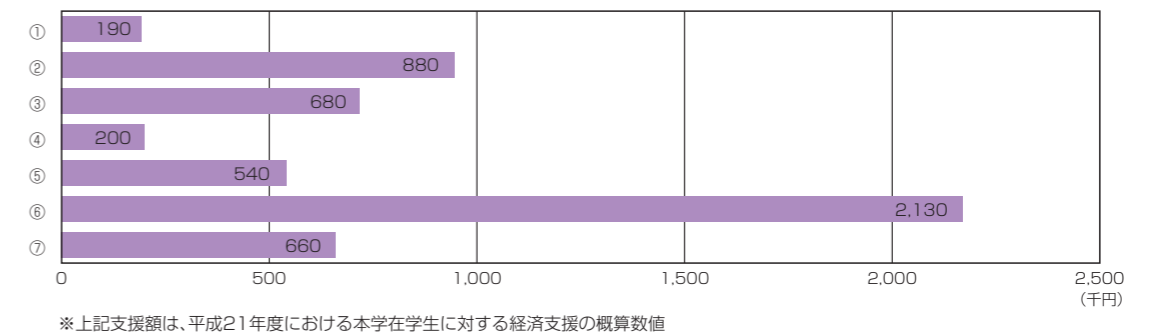
- 家賃等の目安  
(本学周辺におけるワンルームマンションの場合)  
間取り6~7畳の物件 ●家賃:2~5万円  
●共益費:0~5千円  
●保証金:5~20万円

大学院教育・研究活動支援

■支援総額

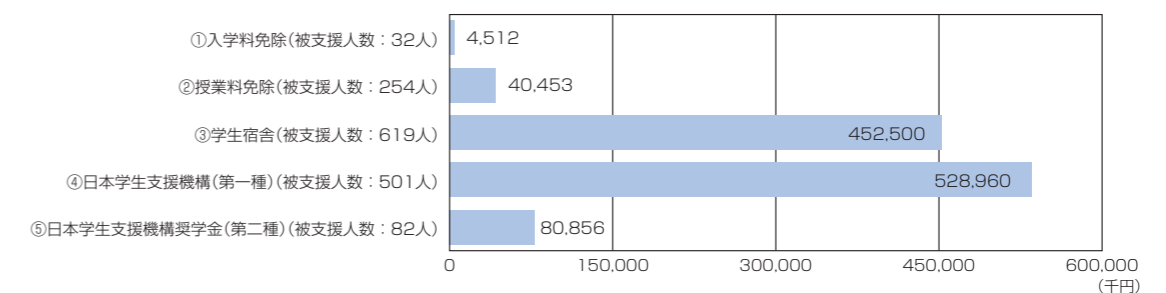


■一人当平均支援額

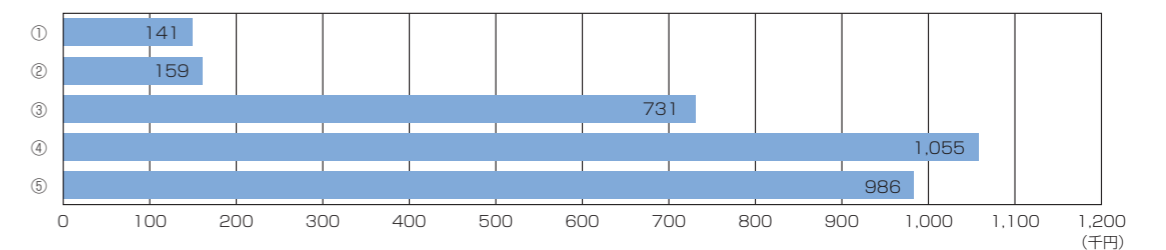


学生生活支援

■支援総額



■一人当平均支援額



# キャンパスマップ

関西学術研究都市にふさわしく、最先端の施設を完備



- ① 事務局
- ② 附属図書館（電子図書館）
- ③ 学生会館・保健管理センター
- ④ 先端科学技術研究推進センター
- ⑤ ペンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- ⑥ ミレニアムホール
- ⑦ ゲストハウスせんたん
- ⑧ 情報科学研究科  
情報科学センター
- ⑨ バイオサイエンス研究科  
遺伝子教育研究センター
- ⑩ 動物飼育実験施設
- ⑪ 植物温室
- ⑫ 物質創成科学研究科  
物質科学教育研究センター
- ⑬ 学際融合領域研究センター
- ⑭ 学生宿舎
- ⑮ 職員宿舎
- ⑯ イノベーションセンター

**公営駐車場定期駐車券【本学学生】**  
 1ヶ月 1,500円 3ヶ月 4,000円  
 6ヶ月 7,500円 12ヶ月 13,500円

※申込みは、本学支援財団事務所（高山サイエンスプラザ内）にて。  
 ※定期駐車券は、駐車スペースの確保を約束するものではありません。

## ミレニアムホール⑥



入学式や学位記授与式、会議、講演などを行うことができる、多目的ホールです。

## 福利厚生施設

- 学生会館③  
学生および教職員の厚生施設である学生会館に、食堂（300席）、喫茶室（30席）、売店を設けています。売店では、文房具、書籍をはじめ、各種食品などを取り揃えており、さらに、D.P.E.、クリーニング等の取次ぎサービスも行っています。
- ゲストハウスせんたん⑦  
本学を来訪する内外からの研究者をはじめ、学生や教職員が利用することのできる福利厚生施設です。宿泊施設は手頃な料金で利用することができ、受験時の宿泊にも利用できます。施設内には宿泊者などが利用できる集会室やフィットネス室が設けられています。利用申し込みは、人事課福利厚生係（0743-72-5033）までお問い合わせください。
- 保健管理センター④  
学生および教職員の身体的、精神的健康の保持・増進をはかることを目的としています。内科医師および、看護師が常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。また、センターには、診察室、学生懇話室、休養室を設けています。
- スポーツ施設  
グラウンド  
テニスコート  
バスケットコート



学生会館（食堂）



ゲストハウスせんたん



フィットネス室

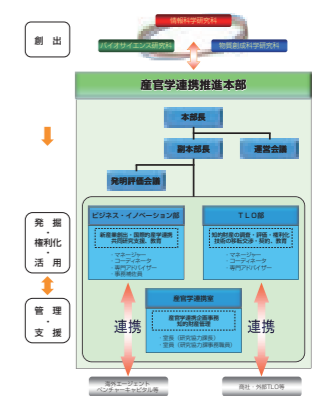


スポーツ施設



## 産官学連携

本学は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの構築等、産官学連携を積極的に推進しています。平成16年には、産官学連携推進本部（図参照）を設置し、教育研究スタッフと事務局が一体となって産官学連携活動を活発に行っています。こうした取組みの成果の1つとして、本学の外部資金の獲得が全体では約35億円となり、教員1人当たりで考えると約1.620万円、またライセンス収入においても全体では約2.600万円となり、教員1人当たりで考えると約12万円と全国の大学でもトップレベルとなるなど、高い実績を挙げています。



## リエゾンオフィス

本学では、首都圏との産官学連携を有機的に進めるために、東京にリエゾンオフィスを開設しています。さらに、地域との連携を深めるために、中小企業の街・東大阪市にもリエゾンオフィスを設けています。



東京事務所



東大阪事務所

## 奈良先端科学技術大学院大学支援財団（高山サイエンスプラザ内）

奈良先端科学技術大学院大学の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、平成3年に設立されました。同財団の基本財産（20億円）の運用益により、教育研究活動、国際交流活動、学術研究成果の普及活動等に対する支援事業が行われています。



## 高山サイエンスプラザ

大学の隣接地に、本学の支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、その施設内にもレストラン、書店、研修室、現金自動預払機（南都銀行）等が設けられています。

# キャンパス周辺エリアMAP

①高山竹林園



②高山八幡神社



③学研北生駒駅



④サンマルク



⑤グルメシティ



⑥素盞鳴神社



⑱高の原中央病院



⑰高の原駅



⑯イオン高の原



⑮ゆららの湯



⑭TSUTAYA



⑦学研奈良登美ヶ丘駅



⑧イオン奈良登美ヶ丘



⑨コーナン学園前登美ヶ丘・ライフ学園前



⑩リコラス



⑪松伯美術館



⑫アビタタウンけいはんな



⑬国立国会図書館関西館



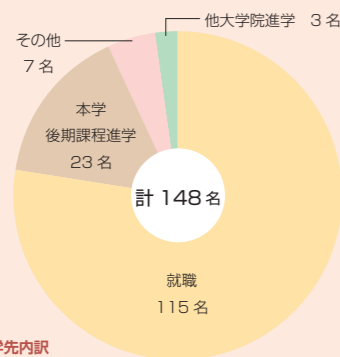
# 修了後の進路及び就職状況

優秀な修了生たちが、幅広い分野の企業や大学で活躍中

※平成22年3月31日現在

## 情報科学研究科

【平成21年度博士前期課程修了者】

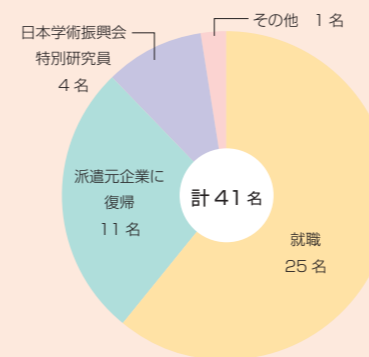


- 他大学院進学先内訳
- 京都大学
  - 筑波大学
  - 東北大学

### 就職先内訳

- アイシン精機㈱
- アイフォーコム㈱
- ㈱アクセス
- アロカ㈱
- 今治造船㈱
- インフォコム㈱
- ㈱エス・ケー・アイ
- NTTコミュニケーションズ㈱
- ㈱NTTデータ
- 戎屋化学工業㈱
- ㈱オー・エル・エム・デジタル
- 大塚電子㈱
- オムロン㈱
- ㈱西電㈱
- ㈱京都科学
- 京システム㈱
- 京セラミタ㈱
- ㈱クラレ
- KDDI㈱
- ㈱神戸製鋼所
- 光洋機械工業㈱
- ㈱小松製作所
- サイステックノロジー㈱
- ㈱サイバード
- 三洋電機㈱
- ㈱ジェイテック
- ㈱シグマ
- ㈱島津製作所
- 住友電気工業㈱
- セイコーエプソン㈱
- セネリックソリューション㈱
- 任天堂㈱
- ソニー
- イー・エルエスアイ・デザイン㈱
- タイハツ工業㈱
- 高槻市
- ㈱竹中工務店
- ㈱知能情報システム
- TIS㈱
- ㈱ONP情報システム
- ㈱デンソー
- ㈱東芝
- 東洋光学㈱
- 東洋紡績㈱
- TOWA㈱
- 特許庁
- ㈱トプコン
- トヨタテクニカルディベロップメント㈱
- トヨタ自動車㈱
- 中外製薬㈱
- 奈良興行
- 西日本高速道路㈱
- 西日本電信電話㈱
- 西日本旅客鉄道㈱
- 日産ソフトウェアエンジニアリング㈱
- ニッセイ情報テクノロジー㈱
- ニフティ㈱
- 日本エリクソン㈱
- 日本電信電話㈱
- 社団法人日本放送協会
- 任天堂㈱
- パナソニック㈱
- パナソニックメディカルソリューションズ㈱
- ㈱パナソニックゲームズ
- 日立公共システムエンジニアリング㈱
- ㈱日立国際電気
- 日立システムアンドサービス
- 日立情報制御ソリューションズ
- 日立製作所
- 富士重工業㈱
- 富士通㈱
- ブラザー工業㈱
- ㈱プロアシスト
- 三重県警察本部
- ㈱ミクシィ
- 三菱工業㈱
- 三菱UFJフィナンシャル・グループ㈱
- ㈱メダチップス
- ヤフー㈱
- 横河電機㈱
- 読売テレビ放送㈱
- ㈱リコー
- リコーITソリューションズ㈱

【平成21年度博士後期課程修了者】

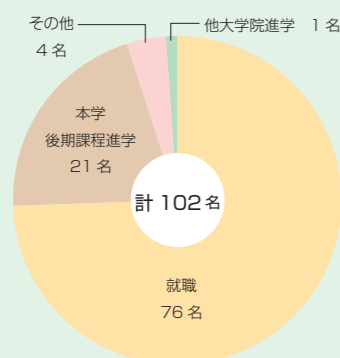


### 就職先内訳

- 奈良先端科学技術大学院大学
- 秋田県立脳血管研究センター
- ㈱アクセス
- 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター
- 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構
- 京都大学
- クアール㈱
- 独立行政法人産業技術総合研究所
- 独立行政法人情報通信研究機構
- 東京工業大学
- 東京大学
- 東京理科大学
- ㈱東芝
- 東北大学
- 日本電信電話㈱
- 富士通㈱
- ヤマハ㈱
- 独立行政法人理化学研究所

## バイオサイエンス研究科

【平成21年度博士前期課程修了者】

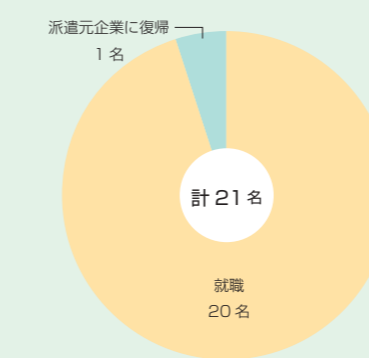


- 他大学院進学先内訳
- 大阪大学

### 就職先内訳

- アース製薬㈱
- 天野製薬㈱
- イービーエス㈱
- 石原産業㈱
- ㈱インテック
- 梅乃宮造酒㈱
- 栄研化学㈱
- ㈱エスアールディ
- S T Mバイオメソッド㈱
- エフジーイー・ラボラトリーズ㈱
- 応用地質㈱
- 大塚製薬㈱
- オリエンタル酵母工業㈱
- カネコ種苗㈱
- 協友アグリ㈱
- 近畿大学
- 小太郎漢方製薬㈱
- サントリーホールディングス㈱
- ㈱サンフラネット
- ㈱三和化学研究所
- CSLベレーリング㈱
- シーシーエス㈱
- ㈱J-オイルミルズ
- ㈱ジェーシービー
- ㈱システムアンサー
- シスメックス㈱
- シマダヤ㈱
- シミック㈱
- 正栄食品工業㈱
- ビー・フ라운エースクラブ㈱
- ヒガシマル醤油㈱
- ㈱日立物流
- 富士産業㈱
- 山波糖化工業㈱
- ソリマチ㈱
- ㈱ダイヤ製薬
- テルモ㈱
- 東京デリカフーズ㈱
- 東京不動産管理㈱
- 東和薬品㈱
- 鳥取市役所
- ㈱トプコン
- ㈱中島大祥堂
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 日清食品ホールディングス㈱
- 日東電工㈱
- 日本製粉㈱
- 日本アルコン㈱
- 日本アルシー㈱
- 日本書道㈱
- 日本たばこ産業㈱
- 日本ミルクコミュニティ㈱
- パナソニック㈱
- 林一㈱
- 財団法人阪大微生物病研究会
- ビー・フ라운エースクラブ㈱
- ヒガシマル醤油㈱
- ㈱日立物流
- 富士産業㈱
- ㈱富士通関西システムズ
- 藤本製薬㈱
- 玉田工業㈱
- 丸大食品㈱
- ㈱マルハニチロ食品
- 三基商事㈱
- ㈱メティセオ
- メルシャン㈱
- ヤマキ㈱
- ヤフーセンターファーマ㈱
- ユニテックフーズ㈱
- ㈱ワークスアプリケーションズ
- ㈱ワールドインテック

【平成21年度博士後期課程修了者】

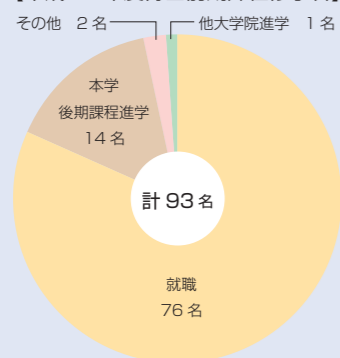


### 就職先内訳

- 奈良先端科学技術大学院大学
- National Center for Genetic Engineering and Biotechnology
- 大阪大学
- 独立行政法人科学技術振興機構
- 国立精神神経センター
- ㈱資生堂
- タマノイ酢㈱
- 東京医科歯科大学
- 独立行政法人理化学研究所

## 物質創成科学研究科

【平成21年度博士前期課程修了者】

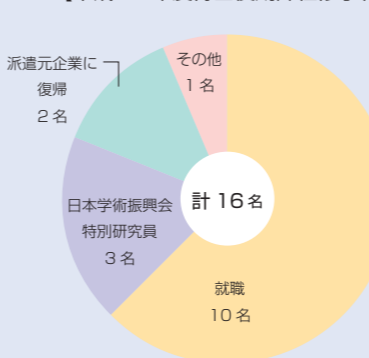


- 他大学院進学先内訳
- 北海道大学

### 就職先内訳

- アークレイ㈱
- ㈱アルバック
- 岩谷産業㈱
- ウシオ電機㈱
- MHIソリューションテクノロジー㈱
- ㈱大塚製薬工場
- オカモト㈱
- ㈱カネカ
- 河村化工㈱
- キヤン㈱
- 共栄社化学㈱
- 菅竹コンクリート工業㈱
- ㈱クラレ
- ㈱クリーンベンチャー21
- 光洋サーモシステム㈱
- ㈱サイゼリヤ
- 三井物産
- サンディスク㈱
- 三洋化成工業㈱
- ㈱三和化学研究所
- シャープ㈱
- ㈱松風
- 新中村化学工業㈱
- 住友電気工業㈱
- セイコーエプソン㈱
- 西菱エンジニアリング㈱
- 瑞水化学工業㈱
- ㈱タカ
- ダイキン工業㈱
- タイハツ工業㈱
- 太平化学産業㈱
- WDBエウレカ㈱
- ㈱精本チェーン
- テルモ㈱
- ㈱デンソー
- 東京エレクトロニクス㈱
- 東ソー㈱
- トーヨーポリマー㈱
- トヨタ自動車㈱
- トヨタテクニカルディベロップメント㈱
- ㈱アード研究所
- ㈱ニコン
- ニッタ㈱
- 日鉄環境エンジニアリング㈱
- 日本オプネクスト㈱
- 日本カーバイド工業㈱
- 日本ゼオン㈱
- 日本バーオキサイド㈱
- (ナソニック)プロダクションテクノロジー㈱
- (パコック)日立㈱
- ㈱浜理薬品工業㈱
- ㈱日立グローバルストレージテクノロジー㈱
- 日立造船㈱
- ㈱日立メディコ
- 富士ゼロックス㈱
- 富士通テレコムネットワークス㈱
- 富士通㈱
- 船井電機㈱
- ㈱プリファスト
- ㈱ヘキサケミカル
- 防衛省
- ホソカワミクロン㈱
- ポリプラスチックス㈱
- 三菱化学㈱
- 三菱重工業㈱
- メック㈱
- 横河電機㈱
- 横河メータ&インストルメンツ㈱
- 横浜ゴム㈱
- ㈱リコー
- 利昌工業㈱
- ローム㈱

【平成21年度博士後期課程修了者】



### 就職先内訳

- Eindhoven University of Technology
- Fuxin Heng Tong Fluorine Chemicals
- 旭硝子㈱
- 大阪大学
- 第一工具㈱
- 財団法人地球環境産業技術研究機構
- 日立化成工業㈱
- ㈱高橋堂
- ローム㈱

本学では、年に数回の学外講師による就職支援プログラムを実施しており、就職についてのサポートもばっちりです。

## 第1回 就職ガイダンス

就職活動の進め方と  
支援スケジュール予定について

## 第2回 就職ガイダンス

自己分析対策講座

## 第3回 就職ガイダンス

自己PR作成講座

## 第4回 就職ガイダンス

履歴書・エントリーシート対策講座

## 第5回 就職ガイダンス

面接・マナー講座

## 第6回 就職ガイダンス

面接集中講座 ~集団面接~

## 第7回 就職ガイダンス

面接集中講座 ~集団面接~

## 第8回 就職ガイダンス

面接集中講座 ~集団面接~

## 第9回 就職ガイダンス

直前対策講座

(平成22年度のプログラムです)

# 資料その他

## 学生数

研究科名	募集人員		現 員						合計	
	博士前期(修士)課程	博士後期(博士)課程	博士前期(修士)課程			博士後期(博士)課程				
			1年	2年	計	1年	2年	3年		計
情報科学研究科	146	43	146 (13)	169 (15)	315 (28)	40 (5)	34 (4)	49 (5)	123 (14)	438 (42)
	146	43	146 (13)	169 (15)	315 (28)	40 (5)	34 (4)	49 (5)	123 (14)	
バイオサイエンス研究科	114	34	105 (39)	118 (47)	223 (86)	33 (11)	36 (13)	45 (13)	114 (37)	337 (123)
	114	34	105 (39)	118 (47)	223 (86)	33 (11)	36 (13)	45 (13)	114 (37)	
物質創成科学研究科	90	30	99 (13)	99 (10)	198 (23)	26 (9)	20 (6)	20 (4)	66 (19)	264 (42)
合 計	350	107	350 (65)	386 (72)	736 (137)	99 (25)	90 (23)	114 (22)	303 (70)	1039 (207)

(平成23年1月1日現在)

※ ( ) 内は、女子で内数

※情報科学研究科博士前期課程及び全研究科博士後期課程は秋学期入学を実施しており、各学年とも秋学期入学者を含めています。

## 学位授与状況

研究科名	年度	博士前期課程			博士後期課程		
		修士(工学)	修士(理学)	修士(バイオサイエンス)	博士(工学)	博士(理学)	博士(バイオサイエンス)
情報科学研究科	平成19年度	150 (5)	4 (1)	—	29 (10)	6 (0)	—
	平成20年度	147 (6)	7 (1)	—	30 (8) ③	3 (0)	—
	平成21年度	139 (3)	9 (1)	—	38 (12)	3 (0)	—
	累計 (H5~21)	2109 (125)	94 (7)	—	406 (138) ⑦	37 (7)	—
バイオサイエンス研究科	平成19年度	—	—	108 (0)	—	—	30 (1) ③
	平成20年度	—	—	104 (0)	—	—	21 (0) ③
	平成21年度	—	—	102 (0)	—	—	21 (0) ②
	累計 (H7~21)	—	—	1672 (2)	—	—	311 (11) ⑥
物質創成科学研究科	平成19年度	74 (2)	18 (0)	—	12 (2)	11 (3)	—
	平成20年度	81 (1)	14 (0)	—	14 (8)	10 (4)	—
	平成21年度	84 (1)	9 (0)	—	10 (4)	6 (1)	—
	累計 (H11~21)	817 (6)	190 (3)	—	105 (33)	56 (13)	—

(平成22年4月1日現在)

※ ( ) は、短期修了者数を内数で示す。○内は、本学の学位規程第3条第3項による学位授与者を外数で示す。

## 学術交流協定の締結

本学では、海外の教育研究機関と、共同研究、共同シンポジウム、講義の実施、学術情報及び学術資料の交換並びに教職員及び大学院学生の交流を行っています。これらの交流を促進するため、学術交流協定の締結を積極的に進めています。

協定は相手大学等と事前の協議を重ねて締結されており、現在、大学間協定は26件、部局間交流協定が16件締結されています。

### 【全 学】

- カリフォルニア大学デービス校
- 東フィンランド大学
- ガジャマダ大学
- マヒドン大学
- オーボーン・アカデミー大学
- ボゴール農業大学
- ルーバン・カトリック大学
- ポールサバチエ大学
- 韓国生命科学研究所
- 韓国科学技術院
- ポアティエ大学
- 中国科学院 遺伝学発生生物学研究所
- エコールポリテクニク
- 天津理工大学
- アテネオデマニラ大学
- ロシア国立サンクトペテルブルク工科大学

### 【マレーシアサイエンス大学】

- チュロンコン大学
- マラヤ大学
- インドネシア大学
- マレーシアトラ大学
- カセサート大学
- マレーシア国際イスラム大学
- 国立交通大学
- マプア工科大学
- 南台科技大学

### 【情報科学研究科】

- オウル大学理学部情報処理科
- ハワイ工科大学
- 電子科技大学計算機理工学研究所、ソフトウェア学研究所
- 湖南大学計算機と通信学院

### 【バイオサイエンス研究科】

- ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所
- 高麗大学生命工学院
- ベトナム科学技術院バイオテクノロジー研究所
- センテナリー研究所

### 【物質創成科学研究科】

- 光州科学技術院物質理工学研究所
- ラトビア大学物理数学部
- チューリヒ大学理学部
- デブレチン大学物理学研究所
- ラインマイン応用科学工学部
- ライデン大学理学部
- 国立交通大学理学院
- 遼寧大学化学院

学術交流協定締結状況(平成23年1月1日現在)

## 留学生

国・地域	アジア										アフリカ		中東	中南米		北米	ヨーロッパ		オセアニア	合計																	
	中	イ	フ	マ	ベ	韓	バ	台	イ	ラ	モ	パ	ケ	コ	セ	エ	サ	レ	フ		バ	メ	ア	イ	フ	ス	ウ	アル	ニュ	パ							
国費外国人留学生	1	1							1								1	1	1								1		7								
博士前期課程																													(1)								
博士後期課程	3	3			1		1				1							3	1							1		1	15								
研 究 生	(1)	(2)			(1)													(1)	1	1	1								(5)								
私費外国人留学生	2	2										1	1					1	1	1			1						10								
博士前期課程	(2)	(1)																											(5)								
博士後期課程	9	1	2	2	2	1	2		1	1		1	1				1					2	1						26								
研 究 生	(4)	(1)	(1)		(2)	(1)																(1)							(10)								
特別研究学生	11	15	2	6	6	3	2	1	1			1	1									1		1					52								
博士前期課程	(6)	(8)	(1)	(4)	(3)	(1)						(1)																	(25)								
博士後期課程	3	1																											4								
研 究 生	(1)																												(1)								
特別研究学生	2																						2						4								
博士前期課程	(1)																												(1)								
博士後期課程																													0								
研 究 生																													(0)								
特別研究学生	1																								1				2								
博士前期課程																													(0)								
博士後期課程																													0								
研 究 生																													(0)								
特別研究学生																													0								
計	27	21	10	9	8	5	4	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	5	2	1	1	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	120
	(12)	(2)	(5)	(4)	(5)	(3)		(1)					(1)										(2)							(48)							

※在留資格が「留学」でない外国人学生を含む

国費外国人留学生 32名(情報 29名、バイオ 2名、物質 1名)

私費外国人留学生 88名(情報 39名、バイオ 33名、物質 16名)

\*赤字は女性を内数で示す。(平成23年1月1日現在)

## 奈良先端科学技術大学院大学外国人留学生等後援会

本学の外国人留学生に対する学修及び生活上の援助を行うとともに、本学の派遣学生が留学中又は学術交流協定等に基づく外国滞在中の不測の事態に対する援助を行うことにより、本学の留学生交流の一層の促進を図っています。



# 入学者選抜試験

大学や企業から、研究への高い志を持つ学生を募集中

## 募集人員/入試日程

博士前期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
情報科学研究科 (募集人員 135名)	第1回 (H23秋学期第2回)	H23.6.6(月)~ H23.6.8(水)	H23.7.6(水)~ H23.7.9(土)	H23.7.15(金)	H24.2下旬 (秋学期入学者はH23.9下旬)
	第2回 (H23秋学期第3回)	H23.8.22(月)~ H23.8.24(水)	H23.9.12(月)~ H23.9.13(火)	H23.9.16(金)	
	第3回 (H24秋学期第1回)	H24.2.13(月)~ H24.2.15(水)	H24.3.7(水)	H24.3.9(金)	
バイオサイエンス 研究科 (募集人員 125名)	高専推薦選抜	H23.4.18(月)~ H23.4.22(金)	H23.6.6(月)~ H23.6.8(水)	H23.7.19(火)	H24.2下旬
	第1回	H23.6.6(月)~ H23.6.8(水)	[本学] H23.7.6(水)~ H23.7.9(土) [東京] H23.7.12(火)	H23.7.19(火)	
	第2回	H23.9.12(月)~ H23.9.14(水)	H23.10.11(火)~ H23.10.13(木)	H23.10.17(月)	
物質創成科学研究科 (募集人員 90名)	高専推薦選抜	H23.4.18(月)~ H23.4.22(金)	H23.6.6(月)~ H23.6.8(水)	H23.7.19(火)	H24.2下旬
	第1回	H23.6.6(月)~ H23.6.8(水)	[本学] H23.7.6(水)~ H23.7.9(土) [東京] H23.7.12(火)	H23.7.19(火)	
	第2回	H23.9.12(月)~ H23.9.14(水)	H23.10.11(火)~ H23.10.13(木)	H23.10.17(月)	
	第3回	H24.2.13(月)~ H24.2.15(水)	H24.3.6(火)	H24.3.12(月)	H24.3下旬

※飛び入学による受験者については、上記合格発表日に仮合格として発表し、後日、所定の手続きを経た上、あらためて合格者として発表します。  
詳しくは学生募集要項を確認してください。  
※高専推薦選抜については、出願期間を適性審査書類提出期間、選抜期日を出願期間に読みかえてください。

博士後期課程	【試験回】	【出願期間】	【選抜期日】	【合格発表】	【入学手続】
情報科学研究科 (募集人員 40名)	第1回 (H23秋学期第2回)	H23.8.8(月)~ H23.8.10(水)	H23.9.5(月)~ H23.9.9(金)	H23.9.16(金)	H24.2下旬 (秋学期入学者はH23.9下旬)
	第2回 (H24秋学期第1回)	H24.2.1(水)~ H24.2.3(金)	H24.2.20(月)~ H24.2.22(水)	H24.2.24(金)	H24.3下旬 (秋学期入学者はH24.9下旬)
バイオサイエンス 研究科 (募集人員 37名)	H23秋学期	H23.7.25(月)~ H23.7.27(水)	H23.8.29(月)~ H23.8.30(火)	H23.9.1(木)	H23.9下旬
	第1回	H23.8.29(月)~ H23.8.31(水)	H23.10.4(火)~ H23.10.5(水)	H23.10.17(月)	H24.2下旬
物質創成科学研究科 (募集人員 30名)	第1回 (H23秋学期第2回)	H23.7.25(月)~ H23.7.27(水)	H23.8.22(月)~ H23.8.25(木)	H23.8.29(月)	H24.2下旬 (秋学期入学者はH23.9下旬)
	第2回 (H24秋学期第1回)	H24.2.13(月)~ H24.2.15(水)	H24.3.7(水)~ H24.3.8(木)	H24.3.12(月)	H24.3下旬 (秋学期入学者はH24.9下旬)

## 入学に必要な学費

【平成24年度】  
 入学料 282,000円(予定額)  
 授業料 535,800円(半期分267,900円)(予定額)  
 (注)入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用されます。

- 試験は主に面接により行います。
- 博士前期課程は1年間に3回入試を行います。
- 秋学期入学の入試も実施します。(博士前期課程は情報科学研究科のみ実施)
- バイオサイエンス研究科及び物質創成科学研究科の博士前期課程1回目の入学者選抜試験は、東京会場でも受験できます。
- 願書等の出願書類を本学ホームページからダウンロードできます。(URL:http://www.naist.jp/)

## 入学状況

※他分野とは、文系出身者等を指しています。

課程	研究科名	年度	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数	入学者のうち		
							社会人	他分野※	飛び入学
博士前期課程	情報科学研究科	平成20年度	341	326	187	139	3	59	2
		平成21年度	347	333	170	144	3	64	4
		平成22年度	440	406	176	139	4	71	0
	バイオサイエンス 研究科	平成20年度	282	268	183	124	7	27	0
		平成21年度	292	281	178	122	4	20	0
		平成22年度	249	230	151	108	1	19	0
物質創成科学研究科	平成20年度	241	234	148	98	8	11	1	
	平成21年度	264	252	128	99	2	10	0	
	平成22年度	359	335	150	99	2	12	0	
博士後期課程	情報科学研究科	平成20年度	28	27	27	26	6	0	—
		平成21年度	28	28	27	27	7	0	—
		平成22年度	35	34	34	34	7	2	0
	バイオサイエンス 研究科	平成20年度	25	25	22	21	2	0	—
		平成21年度	32	32	32	31	3	0	—
		平成22年度	26	26	25	23	2	0	0
物質創成科学研究科	平成20年度	18	18	18	18	4	0	—	
	平成21年度	23	23	20	20	2	0	—	
	平成22年度	26	24	22	21	3	0	0	

秋学期入学者は含めていません。

## 平成22年度博士前期課程の試験回別入試結果

	情報科学研究科			バイオサイエンス研究科			物質創成科学研究科		
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】
出願者	255	127	58	124	96	29	181	142	36
受験者	247	110	49	120	87	23	178	125	32
合格者	136	28	12	87	51	13	97	41	12
入学者	101	26	12	47	48	13	55	32	12

秋学期入学者は含めていません。

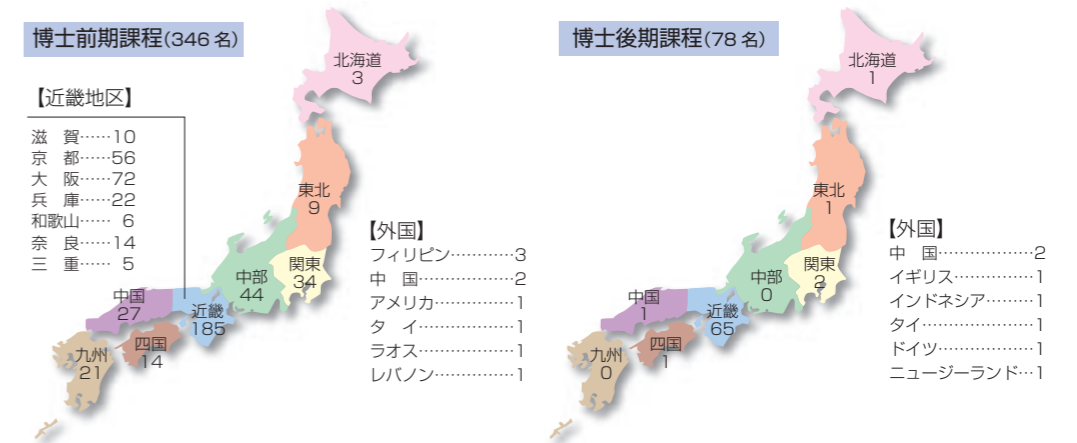
## 平成23年度博士前期課程の試験回別入試結果

(平成23年1月1日現在)

	情報科学研究科			バイオサイエンス研究科			物質創成科学研究科		
	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】	【第1回】	【第2回】	【第3回】
出願者	320	124	—	169	75	—	208	155	—
受験者	313	96	—	162	67	—	204	145	—
合格者	141	30	—	125	39	—	84	47	—

※第3回入学者選抜試験は未実施。

## 平成22年度入学者の出身大学・大学院等の所在地



秋学期入学者は含めていません。

## INFORMATION

●各研究科のホームページの入試Q&Aコーナー等で、入試に役立つ情報が多数掲載されていますので、一度ご覧ください。

# 学生募集イベント

## 受験生のためのオープンキャンパス

本学では毎年、受験生を対象に学内施設を公開するオープンキャンパスを開催しています。研究室訪問や研究機器のデモンストレーションなどを通して、本学の最先端の教育・研究内容を知ることができます。



## 学生募集説明会

本学では毎年、全国各地で受験生を対象に学生募集説明会を開催しています。各研究科の教員から研究内容、学生生活、入試のことなどについて直接話しを聞くことができます。

詳細は本学ホームページ (<http://www.naist.jp>) をご覧ください。

### 【平成23年5月説明会】

仙台、東京、横浜、長野、金沢、名古屋、京都、大阪、奈良、徳島、米子、広島、岡山、福岡で開催。

### 【平成23年8～9月説明会】

東京、京都、大阪で開催。

また、博士前期課程第1回入試の出願を目前に控えた5月末には本学において入試説明会を開催します。



※上記の他、各研究科においてイベントを開催しています。詳細は各研究科のホームページをご覧ください。

情報科学研究科：<http://isw3.naist.jp/home-ja.html>

バイオサイエンス研究科：<http://bsw3.naist.jp/index.html>

物質創成科学研究科：<http://mswebs.naist.jp/index.html>